

日野町保小連携推進計画（改訂版）

保小連携プログラム

保小接続カリキュラム ・ 園児、児童の交流活動 ・ 職員の連携・交流



『遊びの中の豊かな学び』を『主体的な学び』へとつないでいこう！

平成30年2月

日野町保小中一貫教育推進委員会

目次

はじめに	2
第Ⅰ章 基本的な考え方	3
1. 幼保小連携の動き	3
2. 日野町での取組	4
3. 日野町保小連携推進計画『保小連携プログラム』	4
第Ⅱ章 日野町学びの基礎を育むプログラム	6
Ⅱ-1 基本的生活習慣	7
Ⅱ-2 コミュニケーション力	9
Ⅱ-3 自尊感情	11
Ⅱ-4 セルフコントロール力	12
第Ⅲ章 保小連携プログラム	13
1. 保育所と小学校の接続の必要性	13
2. 子どもたちの実態と保小連携	13
3. 育みたい資質・能力と保小の接続	14
4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化	16
5. 方法と効果	20
6. 保育所、各小学校及び保小中一貫教育推進委員会の役割	20
7. 保小連携プログラムのイメージ図	22
Ⅲ-1 保小接続カリキュラム	23
1. 幼児期の教育から小学校教育へ	23
2. 保小連携の3つの視点	24
3. 保小接続カリキュラムの定義等	24
(1) アプローチカリキュラムの定義	24
(2) アプローチカリキュラム実施にあたっての留意点	24
(3) スタートカリキュラムの定義	25
(4) スタートカリキュラム実施にあたっての留意点	25
4. 保小連携3つの視点からのアプローチ	26
A 学校生活適応	26
B 学びの連続性	29
C 互惠性	32
5. アプローチカリキュラム	34
(1) 指導計画	34
(2) 実践事例	42
6. スタートカリキュラム	43
(1) 単元等配当表	43
(2) 各教科等単元計画	45
(3) 実践事例	52
Ⅲ-2 園児、児童の交流活動	54
1. 年長児と小学校1年生の交流活動	54
2. 年長児と小学校5年生の交流活動	55
3. 小学校体験入学	56
4. 交流活動実践事例	57
Ⅲ-3 職員の連携・交流	61
1. 保小連絡会	61
2. 研修会、交流等	62
Ⅲ-4 つなぎたい学びのルール	65

はじめに

日野町保小中一貫教育推進委員会では、日野町教育大綱及び日野町教育振興計画に基づき、基本的な生活習慣や忍耐力、思いやりや協調性を身に付け、自分やまわりの人やふるさとを愛する心をもつ、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成に向け、「心豊かにたくましく羽ばたく 日野の子の育成」を教育目標とした保小中一貫教育を推進しています。

子どもたちは、幼児期において、身近な人や周囲の物、自然などの環境と関わりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていくとともに、食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得していきます。また、子ども同士で遊ぶことなどを通じ、豊かな想像力を育むとともに、自分と違う他者の存在や視点に気付き、相手の気持ちになって考えたり、時には葛藤を覚えたりします。そこで、自分の感情や意思を表現しながら、十分な自己の発揮と他者の受容を経験し、道徳性や社会性の基盤を育んでいきます。

しかし、現在の幼児期の子どもたちを取り巻く状況については、様々な課題が指摘されています。家庭や地域においては、子どもたちが人や自然と直接に触れあう経験が少なくなったり、この時期の子どもにふさわしい生活のリズムが獲得されにくくなったりしていることなどがあげられます。また、家庭の教育力の低下や児童虐待の増加なども指摘されています。

幼児期の体験はその後の育ちと学びを支える基盤となることから、保育所から小学校低学年にかけての期間を極めて重要な時期であるととらえて、保育所と小学校との連携を進めていく必要があります。

日野町では、平成24年に日野町保小連携推進計画を策定し、保小連携の推進を図ってきたところですが、このたび、第2次日野町教育大綱（平成29年5月）及び日野町教育振興計画〔第Ⅱ期〕（平成28年3月）の制定、そして保育所保育指針（平成29年3月）、小学校学習指導要領（平成29年3月）の告示にあわせて、計画の改定をしました。この日野町保小連携推進計画『保小連携プログラム』により、保小連携がより一層充実し、子どもたちの育ちと学びが豊かなものとなっていくことを期待しています。

平成30年2月

日野町保小中一貫教育推進委員会
会 長 長谷川 弘信
(日野町教育委員会教育長)

第 I 章 基本的な考え方

1. 幼保小連携の動き

平成20年3月に告示された幼稚園教育要領及び保育所保育指針には、発達や学びの連続性を踏まえ、小学校教育との円滑な接続のために連携を図るようとするの内容が示されました。一方、小学校学習指導要領においては、小学校低学年では、幼児期の教育の成果を踏まえ、体験を重視しつつ、小学校への適応、教科などの学習への円滑な移行などが重要であることが示され、幼稚園、保育所との連携が明記されました。

平成29年3月には、新しい幼稚園教育要領及び保育所保育指針、学習指導要領が告示されました。そこには、育みたい資質・能力（「知識及び技能の基礎」・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」）を、幼稚園・保育所等と小学校とが共有し連携を図ることの重要性が示されています。

【幼稚園教育要領 総則】

- 第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。
(中略)
 - 2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。
 - 3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。
(以下略)

【保育所保育指針 総則】

- 4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項
- (1) 育みたい資質・能力
 - ア 保育所においては、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、1の(2)に示す保育の目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。
(中略)
 - イ アに示す資質・能力は第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体によって育むものである。
 - (2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮するものである。
(以下略)

【小学校学習指導要領 総則】

第2 教育課程の編成

4 学校段階等間の接続

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

2. 日野町での取組

日野町では、平成17年に、黒坂小学校と黒坂保育所（当時）とが連携して「学びの基礎を育むプログラム」を策定し、保小連携の礎がつけられました。

その後、平成23年4月には、幼児期の育ちを小学校へよりなめらかにつなげていくための体制づくりとして、保育所の所管を町長部局（担当：健康福祉課）から教育委員会部局へ移管しました。これと時期を合わせて、「日野町子ども15年プラン」を制定し、一人一人の子どもの育ちを大切にしながら、0歳から15歳までの一貫した教育に取り組んできました。

平成28年3月には日野町教育振興基本計画〔第Ⅱ期〕を制定し、そこに掲げる「【目標2】次代を担う人づくり」を「日野町子ども15年プラン（第Ⅱ期）」と位置づけ、保小中一貫教育の深化、充実を図っています。

3. 日野町保小連携推進計画『保小連携プログラム』

保育は、「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」（保育所保育指針 平成29年3月）ために行われ、義務教育は「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う」（学校教育法 平成18年12月）のために行われるというように、子どもの育ちを軸に、両者は連続しています。しかし、実際の保育所での生活と小学校での生活、保育内容と教育内容との間に大きな隔たりがあったことが、小1プロブレムの要因にもなっていました。

日野町では、小1プロブレムの解消を図るためには、保育と学校教育との連携が極めて重要であるという認識のもと、保小連携を具体的に進めるため、平成24年に「日野町保小連携推進計画」を策定しました。

この計画では、「子どもたちの育ちと学びを なめらかにつなごう！」というスローガンを掲げ、「日野町学びの基礎を育むプログラム」を踏まえた保小接続カリキュラム（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）を示し、関係者が共通認

識をもちながら、実践を積み重ねていくことができるようにしました。

今回の改定では、本計画の名称を『保小連携プログラム』とするとともに、新たなスローガン『遊びの中の豊かな学び』を『主体的な学び』へとつないでいこう！』を掲げ、「日野町学びの基礎を育むプログラム」（平成26年3月改定）を基盤とした「主体的な学び」につながる力を育成する保小接続カリキュラム、保小の接続をより円滑にしていくための園児と児童との交流活動、そして、保育内容や教育内容を充実させるための職員の連携・交流について、具体的な内容を示しています。



※「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」とは・・・

就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で活かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラム。

[国立教育政策研究所 幼児教育研究センター]



卒園・入学



幼児期の育ちや学びを踏まえて、小学校の授業を中心とした学習へうまくつなげるため、小学校入学後に実施される合科的・関連的カリキュラム。

[国立教育政策研究所 幼児教育研究センター]

第Ⅱ章 日野町学びの基礎を育むプログラム

保育所、小学校、中学校と一貫した取組を保護者と連携しながら実践し、学びの基礎となる基本的な生活習慣の定着、コミュニケーション力、自尊感情、セルフコントロール力を育てます。

《育てたい4つの力》

1 基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康な生活を送るためのもとなる生活習慣 特に食事、睡眠、整理・整頓、あいさつ・返事を視点とする。
2 コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 他者の話を聞き、気持ちを理解し、情報を収集したり発信したりする力 特に聞く、話す、関わるの3つを視点とする。
3 自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> 自分を否定するのではなく肯定的に認め、自分らしさに自信をもち、自分を価値あるものとして思えるようになること 特に意欲・自己実現、自己肯定感を視点とする。
4 セルフコントロール力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情や欲望をコントロールする力 特に自己抑制、根気強さを視点とする。

《成果指標》「日野町教育振興基本計画〔第Ⅱ期〕」による

指 標		目標値
学びの基礎を育むプログラムの展開	あいさつ・返事・履き物そろえをしている児童、生徒の割合	100%
	早寝・早起きをしている児童、生徒の割合	80.0%
	朝食を食べている児童、生徒の割合	100%
	自分の考えや意見を発表することが得意な児童、生徒の割合	(小6)60.0% (中3)50.0%
	友達の話や意見を最後まで聞くことができる児童、生徒の割合	(小6)100% (中3)95.0%
	みんなで協力しうれしかった経験のある児童、生徒の割合	(小6)95.0% (中3)85.0%
	自分にはよいところがあると思う児童、生徒の割合	(小6)80.0% (中3)70.0%
	難しいことでも挑戦する児童、生徒の割合	(小6)80.0% (中3)75.0%
	ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験のある児童、生徒の割合	(小6)96.0% (中3)95.0%
	夢や希望をもち、それに向けて努力している児童、生徒の割合	80.0%
まわりの人たちと仲良く過ごしている児童、生徒の割合	95.0%	

Ⅱ－１ 基本的生活習慣

連携の観点		保 育 所		
		3 歳児	4 歳児	5 歳児
食事	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌いなものでも食べようとする。 ・箸を正しく持って食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢で食べる。 ・こぼした物は自分で拾って片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定量を一定時間内に食べ終わる。 ・正しい姿勢で座り食べる。
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の心身の状態を把握し、量を加減しながら、食事が楽しい雰囲気のできるように、配慮工夫する。 ・家庭での食事状況を把握し、連携をとりながら進めていく。 ・楽しく食事をしながらマナーを知らせていく。 ・朝食の大切さを子どもたちに知らせるとともに家庭にも働きかける。 		
睡眠	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に寄り添ってもらいながら昼寝や休息を十分にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の言葉かけにより昼寝や休息をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼寝や休息を自分から進んでする。
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間の大切さを知らせ、成長に必要な十分な時間が保障されるように家庭に働きかける。 ・早寝早起きの大切さを、保育を通して知らせ、意識がもてるようにしていく。 		
整理・整頓	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の物と人の物を区別し、整理する場所が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使った物を友達と一緒に片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使った物をみんなで片付け整理する。
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭においての自分の持ち物の整理・整頓の様子を聞き、生活しやすい場を工夫する。 ・身のまわりのことが、自分でスムーズにできるための環境を子どもたちと一緒に工夫する。 ・保育者は、常に園内外の整理や美化に努め、心地よい環境をつくる。 		
あいさつ・返事	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常のあいさつをする。 ・呼ばれたら返事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・促されなくても、返事、あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要なあいさつや返事を気持ちよく自分からする。
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が進んであいさつし、あいさつされる心地よさを味わうことができるようにする。 ・自分からあいさつできたときは認め、あいさつされて心地良かったことを知らせる。 		

連携の観点		小 学 校		中 学 校
		下学年	上 学 年	全 学 年
食事	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の大切さが分かり、マナーに気をつけて食べようとする。 ・偏食をなくそうとする。 ・栄養について知り、自分の健康を考えて食べる。 		
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の実態を把握し、家庭、本人への働きかけをする。 ・給食のマナーを知らせ、楽しく食事をする工夫をする。 ・嫌いなものでも少しずつ食べていくよう声かけをする。 ・各教科等と関連付けて、自分の食生活を見つめさせる。 		
睡眠	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きの大切さに気付 付き、決まった時刻に寝 たり起きたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で決まった時間に寝 たり起きたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な睡眠時間を確保する ために工夫して生活する。
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の実態を把握し、学校での様子を知らせていく。 ・通信等を通し、生活リズムの大切さについて、知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育（保健）の学習を通して睡眠 の大切さに気付かせ、実践意欲につ なげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から健康と睡眠の関係を 自覚させ、進んで生活リ ズムを整えていくように励 ます。 ・家庭科、保健体育と関連付 けて、自分の生活リズムを 見つめさせる。
整理・整頓	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・物を大切に使い、もとの 場所にきちんと整理・整 頓して返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・借りた物や公共物を大切に使い、決められた場所にきちん と返す。 ・身のまわりの整理・整頓、後始末を進んでする。 	
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・整然とした教室で気持ち よさを味わわせる。 ・物の置き場を決め、整頓 できるようにさせる。 ・係活動で点検させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館、図書館等の使い方を考え、皆が気持ちよく使える よう、後始末をさせる。 ・係、委員会で点検させていく。 ・家庭科で学んだ整理・整頓を実践させる。 	
あいさつ・返事	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・元気に気持ちよく返事を し、自分から進んであい さつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの場でもはっきりと返 事をしたり、あいさつをし たりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場、相手を考えて、適 切なあいさつ・返事をする。
	保・学 の ア プ ロ ー チ	<ul style="list-style-type: none"> ・できたときにほめる。 ・出会った人にもあいさつ できるように励ます。 ・「おはよう」「おやすみ」 「ごちそうさまでした」 「いただきます」を徹底 する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から凡事徹底の大切さを繰り返し伝えていき、きちん と行動していたら、誰もが肯定的評価を伝える。 	

Ⅱ－２ コミュニケーション力

連携の観点		保 育 所		
		3 歳児	4 歳児	5 歳児
聞く	視点	・相手を見て聞く。	・相手の話を進んで聞こうとする。	・相手の話を注意して聞く。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いてもらえることの心地良さを味わわせ、聞くことの大切さを知らせる。 ・家庭でも会話を多くもってもらおうように働きかける。 		
話す	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思ったことや、感じたことを言葉に表し、保育者や友達との言葉のやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・自分のしたいこと、して欲しいことをはっきり言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しかけや問いかけの言葉に適切に対応する。 ・自分の思いを友達や保育者に言葉で伝える。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが相手に伝わった時の充実感や、話すことの楽しさを知らせる。 ・保育者が最後まで聞き取り、話すことへの自信がもてるようにする。 		
関わる	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言う。 		
	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶおもしろさ分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達がいることの喜びや楽しさがわかり、関わりを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達への思いやりを深め、一緒に喜んだり悲しんだりする。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が仲立ちしながら、友達との関わりをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びを通して一緒に遊ぶことのおもしろさ、楽しさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共感し合う体験を通して、友達と関わることの楽しさや大切さを味わわせる。

連携の観点		小 学 校		中 学 校
		下学年	上 学 年	全 学 年
聞く	視点	<ul style="list-style-type: none"> 相手の目を見て、最後まで口をはさまず聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の中心に気をつけて、大切なことを落とさずに聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を考えながら聞く。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 伸びをほめる。 静かに聞く場を設定する。 簡潔に説明できるようにする。 学習習慣づくりを全学年で取り組む。 		
話す	視点	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言葉できちんと伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中で自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け止めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 反対意見や少数意見でも理由を付けて主張する。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 自信をもたせる。（できるかもしれないという可能性を感じさせる。） じっくりと子どもの話を聞く。 準備をしてから話すようにさせるとともに、成功経験を積ませるようにする。 必要に応じて、気持ちを代弁、通訳する。 		
関わる	視点	<ul style="list-style-type: none"> 「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に自分から言う。 友達に声をかけて遊ぶ。 まわりの人に対して素直な受け答えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の利害に関係なく思いやりのある行動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや立場を考えながら自分の考えを言動に表す。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、相手がどんな気持ちなのか話し伝える。 友達と遊んだり学んだりできるように声をかけたり、グループ編成を工夫したりする。 子ども自身が自分の気持ちを整理できるように話を聞く。 特別活動等を通して、思いを共有できるようにする。 相手の立場を尊重しながら、自分の考えを述べるスキルが身に付くような学習を実施する。 エンカウンターの手法を用いながら、子どもの人間関係を育てる。 		

Ⅱ－３ 自尊感情

連携の観点		保 育 所		
		3 歳児	4 歳児	5 歳児
意欲・自己実現	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしたいことを見付けて楽しむ。 ・保育者の援助を受けながら意欲的に生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることを自分からしてみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標をもち、意欲的に生活する。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・したいことを自分から見付けられるように、生活や遊びの環境を工夫する。 ・失敗を恐れず、してみたいという気持ちを大切にするような言葉かけをする。 		
自己肯定感	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に自分の気持ちを受容してもらうことにより安心して過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に気持ちを受容してもらうことにより、安心して自信をもって過ごす。 	
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままを認める言葉かけをする。 ・子ども同士良さを認め合う場をつくる。（活動の中でがんばった点を共感し合う。） ・役割をつくる（当番活動・お手伝い） 		

連携の観点		小 学 校		中 学 校
		下学年	上 学 年	全 学 年
意欲・自己実現	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことで、失敗を恐れずやってみようとする。 ・自分のめあてをもって努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことにチャレンジしようとする。 ・自分の目標を定め、それに向かって努力を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身やまわりの状況を肯定的に捉え、意欲をもって生活する。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって活動させるとともに、振り返りの場をもつ。 ・学習活動や行事の中で進んで取り組んでいる姿勢を言葉で伝え、達成感を味わわせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標を意識させ、物事に進んで取り組めるように励まし、肯定的評価を伝えながら、達成感を味わわせる。
自己肯定感	視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの自分を好きと感じ、のびのびと過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特徴に自信をもち、自分らしさを大切にする。 	
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままを認める言葉かけをする。 ・子ども同士がお互いのよさを認め合う場をつくる。（よいことみつけ、がんばった人の紹介、終わりの会） ・役割をつくる。（当番活動、委員会活動、集会活動） 		

Ⅱ－４ セルフコントロール力

連携の観点		保 育 所		
		3 歳児	4 歳児	5 歳児
自己抑制	視点	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して、ルールや約束を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達との関わりを通して我慢したり、待ったりする気持ちをもつ。 友達と生活する中で、ルールの大切さに気付き守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 要求のぶつかり合いを通して、自己主張したり相手の主張を受け入れたりする。 約束やルールを守って集団行動をすることの楽しさに気付く。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中でルールを伝えていく。 時には、自分の主張を抑制することによって楽しく遊べることに気付けるようにする。 		
根気強さ	視点	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分でしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分です。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事や役割を最後までやり通す。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりのことが自分でできたかどうかを一つ一つ見届け、やりとげられたらほめる。 できないところは励ましていく。 		

連携の観点		小 学 校		中 学 校
		下学年	上 学 年	全 学 年
自己抑制	視点	<ul style="list-style-type: none"> きまりを守り、集団や他者の迷惑になることは、がまんする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達などまわりの人のことも考えて行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場やまわりの状況を考えて判断し、適切な行動をとる。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 学校、学級でのルールをはっきりさせ守れたことはほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールの点検をする。 自分の行動を随時振り返らせ、まわりの人の気持ちに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己反省し、TPOを考えた行動ができるよう支援する。
根気強さ	視点	<ul style="list-style-type: none"> 自分のすべきことは最後までする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のすべきことは、苦手なことでも最後までやり遂げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立てた目標の実現に向け、見通しをもってやり遂げる。
	保・学のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な仕事や役割を決めることから始め、力を合わせて徐々に目標を上げていくようにさせる。 一人一人にあった課題を与え、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 任せられた仕事を、最後まで投げ出さずにやり遂げることができるように働きかける。 自分で仕事を振り返らせ、次の目標を立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向かうまでの計画を立てさせ、見通しをもたせる。 自分で点検できる方法を身に付けさせる。

第Ⅲ章 保小連携プログラム

1. 保育所と小学校の接続の必要性

保育所等で行われている幼児期の教育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものであり、幼児期の発達の特性に照らして幼児の自発的な活動としての「遊び」を重要な学習として位置づけて保育課程等を編成し、環境を通して意図的・計画的な指導が行われています。遊びを中心とした身体感覚を伴う多様な活動を経験させることによって、豊かな感性を養うとともに、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について実感を伴って深く理解できることにつながる「学習の芽生え」を育てています。

このような特質を有する幼児期の教育は、幼児の内面に働きかけ、一人一人のもつ良さや可能性を見だし、その芽を伸ばすことをねらいとしています。つまり、幼児期の教育は、目先の結果のみを期待しているのではなく、生涯にわたる学習の基礎を育むことを重視しているといえます。

義務教育は児童、生徒の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うとともに、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うという役割を果たしています。また、義務教育は、教育課程に基づき各教科等の内容を年間や単元の指導計画の下で、教科書などの教材を用いて指導されるものでもあります。

このように、遊びを中心とした幼児期の教育と教科等の学習を中心とする義務教育とでは教育内容や指導方法が異なっているものの、保育所から小学校、中学校段階へと子どもの発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続が望まれます。

2. 子どもたちの実態と保小連携

児童の中には、小学校入学後の生活の変化に対応できにくく、学習に集中できない、離席する、教員の話がしっかりと聞けないなどの状況も見られます。

児童一人一人がこうした生活の変化に対応し、小学校教育及びその後の教育において実り多い生活や学習を展開できるよう、保育所と小学校とが相互に教育内容を理解したり、園児と児童との交流を図ったり、指導方法の工夫改善を図ったりすることなどが必要です。

これは、幼児期の教育、小学校教育のどちらかがもう一方の教育内容に合わせることはありません。保育所、小学校がそれぞれの役割を果たすとともに、保育所と小学校との間で園児、児童の実態や指導方法等について互いに理解を深め、広い視野に立って一貫性のある教育を相互に協力し連携することが求められています。

3. 育みたい資質・能力と保小の接続

平成29年3月に告示された保育所保育指針及び小学校学習指導要領には、それぞれで育みたい資質・能力について以下のとおり示されています。

	知識・技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
保育所保育指針	ア 保育所においては、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、1の(2)に示す保育の目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。		
	(ア)豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになる「知識及び技能の基礎」	(イ)気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」	(ウ)心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
小学校学習指導要領	イ アに示す資質・能力は第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体によって育むものである。		
	3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すにあたっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動(略)の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。		
	(1)知識及び技能が習得されるようにすること。	(2)思考力、判断力、表現力等を育成すること。	(3)学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

【幼児教育部会における審議のとりまとめについて(報告)[抜粋]

<p>(1) 幼児教育における「見方・考え方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児期は、幼児一人一人が異なる家庭環境や生活経験の中で、自分が親しんだ具体的なものを手掛かりにして、自分自身のイメージを形成し、それに基づいて物事を感じ取ったり気付いたりする時期であることから、「見方・考え方」も園生活全体を通して、一人一人の違いを受け止めて培うことが大切である。 ○ 幼児教育における「見方・考え方」は、幼児がそれぞれの発達に即しながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりすることである。 ○ また、このような「見方・考え方」は、遊びや生活の中で幼児理解に基づいた教員による意図的、計画的な環境の構成の下で、教員や友達と関わり、様々な体験を通して広がったり、深まったりして、修正・変化し発展していくものである。こういった「見方・考え方」が幼稚園等における学びにつながるものである。 ○ このような様々な体験等を通して培われた「見方・考え方」は、小学校以降において、各教科等の「見方・考え方」の基礎になるとともに、これらを統合化することの基礎ともなるものである。 <p>(2) 幼児教育において育みたい資質・能力の整理と、小学校の各教科等との接続の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 育成を目指す資質・能力の三つの柱は、「高等学校を卒業する段階で身に付けておくべき力は何か」という観点や、「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」という観点を共有しながら、各学校段階の各教科等において、系統的に示されなければならない

こととされている。

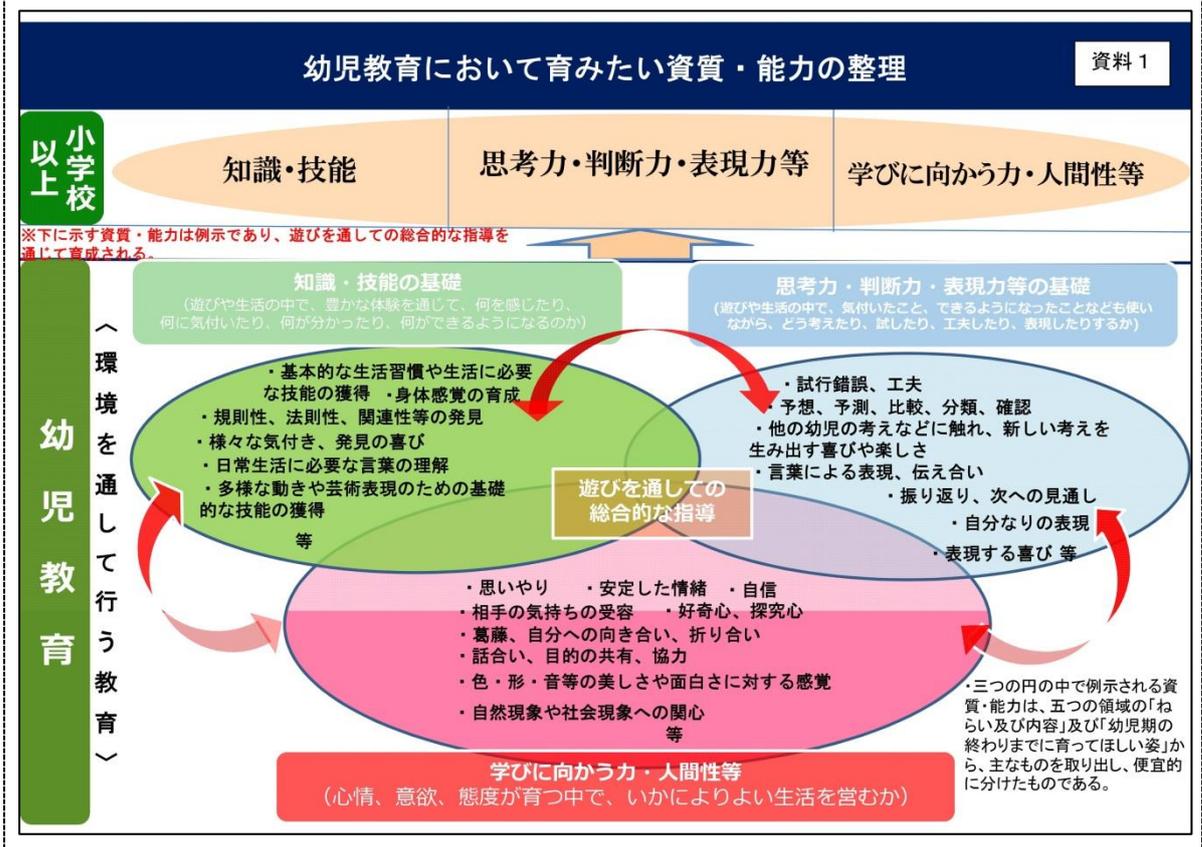
○ 幼児教育においては、幼児期の特性から、この時期に育みたい資質・能力は、小学校以降のような、いわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことが重要である。このため、資質・能力の三つの柱を幼児教育の特質を踏まえ、より具体化すると、以下のように整理される。

①「知識・技能の基礎」(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

②「思考力・判断力・表現力等の基礎」(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

③「学びに向かう力・人間性等」(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

○ これらの資質・能力は、現行の幼稚園教育要領等の5領域の枠組みにおいても育んでいくことが可能であると考えられることから、幼稚園教育要領等の5領域は引き続き、維持することとする。なお、幼児教育の特質から、幼児教育において育みたい資質・能力は、個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びを通しての総合的な指導を行う中で、「知識・技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」を一体的に育んでいくことが重要である。(資料1を参照)

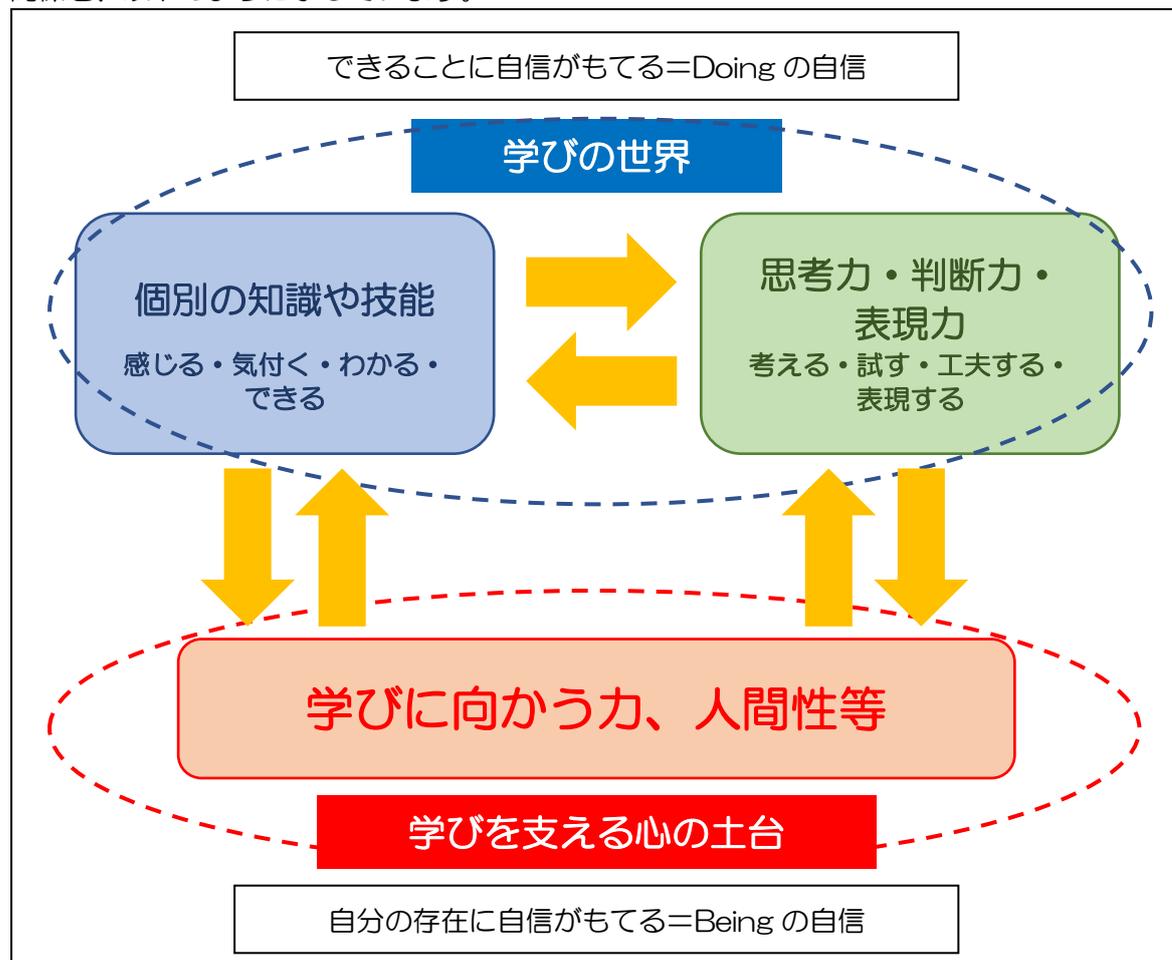


平成 28 年 8 月 26 日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 幼児教育部会

幼児期の教育において育まれた資質・能力を踏まえた小学校教育が行われるよう、視点を明確にした保育・授業研究会や保小連絡会等を通して、お互いの教育内容を理解するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有していくことが大切です。

【「育成すべき資質能力の3つの柱」の関係】

肥後功一教授（島根大学大学院教育学研究科）は、「育成すべき資質・能力の3つの柱」の関係を、以下のように示しています。



2017.8.28 平成29年度第1回幼保小連携推進モデル事業連絡協議会資料

4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化

平成29年3月に告示された保育所保育指針には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が下記ア～コのように示されています。これは、保育指針のねらい及び内容に基づいた保育活動全体を通して、子どもに育みたい資質・能力が実現された小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮するものとされています。

一方、小学校学習指導要領には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と示されています。小学校においては生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、幼児期の終わりまでに育った力が発揮できるような工夫を行いながら、幼児期に育まれた資質・能力を徐々に各教科の特質に応じた学びにつなげていく必要があります。

そのためには、アプローチカリキュラムとの関連や就学前の子どもの姿の実際を把握することがとても大切です。

ア 健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

ウ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

エ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

オ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちながら関わるようになる。

ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

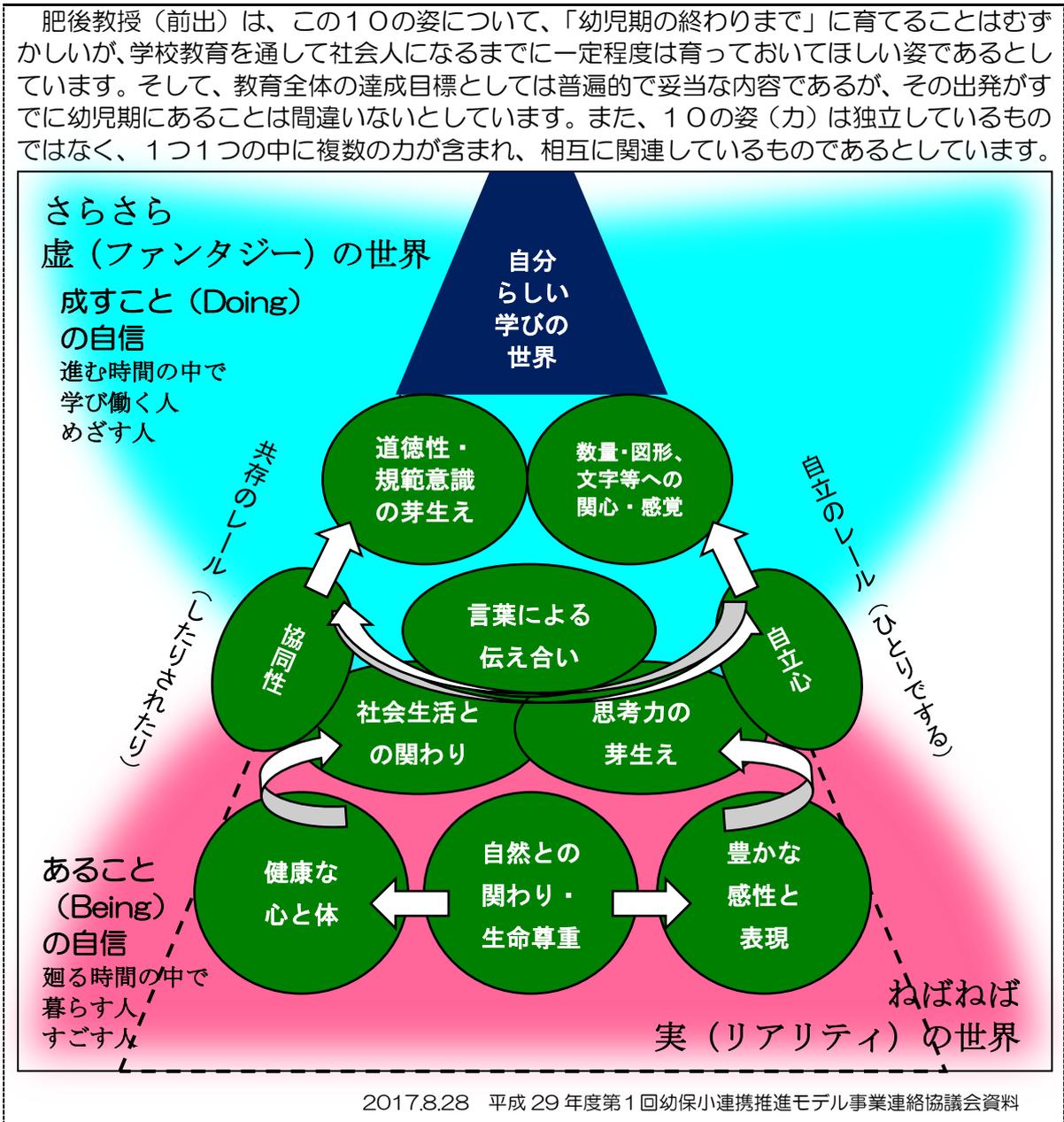
ケ 言葉による伝え合い

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

コ 豊かな感性と表現

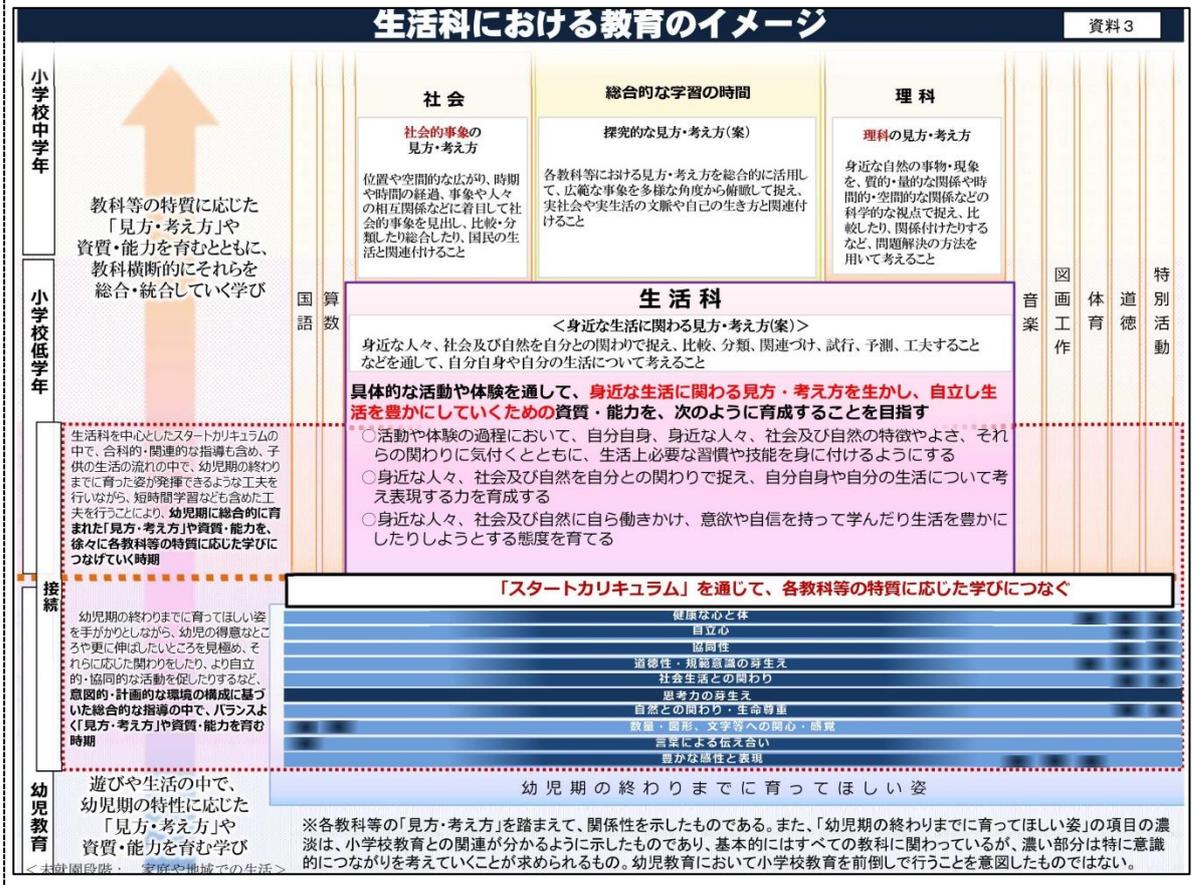
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

【「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の関連】



【幼児教育部会における審議のとりまとめについて（報告）[抜粋]】

- 5領域の内容等を踏まえ、5歳児修了時までには育てほしい具体的な姿を平成22年に取りまとめられた「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」を手掛かりに、資質・能力の三つの柱を踏まえつつ、明らかにしたものが、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」である。
- この「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」は、5領域の内容等を踏まえ、特に5歳児の後半にねらいを達成するために、教員が指導し幼児が身に付けていくことが望まれるものを抽出し、具体的な姿として整理したものであり、それぞれの項目が個別に取り出されて指導されるものではない。もとより、幼児教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、これらの姿が育っていくことに留意する必要がある。
- また、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」は、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児においても、これを念頭に置きながら5領域にわたって指導が行われることが望まれる。その際、3歳児、4歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねが、この「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」につながっていくことに留意する必要がある。
- さらに、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」は、5歳児後半の評価の手立てともなるものであり、幼稚園等と小学校の教員がもつ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られることが期待できる。
- 小学校の各教科等においても、生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導や短時間での学習などを含む授業時間や指導の工夫、環境構成等の工夫を行うとともに、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、幼児期に育まれた資質・能力を徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく必要がある。（資料3を参照）



平成 28 年 8 月 26 日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 幼児教育部会

5. 方法と効果

保小接続カリキュラム、園児と児童との交流活動そして職員の連携・交流を行うことにより、子ども一人一人が生活の変化に適応しやすくなるとともに、次のような効果が期待されます。

①保小接続カリキュラム

- ・保小接続カリキュラムにより、幼児期の教育と小学校教育とのつながりが明確になり、その効果的な実践により、児童一人一人が生活の変化へ対応できる。

②園児、児童の交流活動

- ・児童との交流活動により、園児が、小学校生活を知り、期待を寄せたり自分の近い将来を見通したりできるようになる。
- ・園児との交流活動により、児童が、園児に伝わるような言葉使いや関わりを工夫するなどの活動を通して、思いやりの心を育んだり、自分の成長に気付いたりする。

③職員の連携・交流

- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有、園児、児童の実態、教育内容や指導方法について相互理解を深めることにより、円滑な接続に向けた指導方法等の改善ができる。
- ・義務教育修了までに子どもに育てる力という長期的な視点から、園児、児童の発達の段階に応じてそれぞれの機関が果たすべき役割について再認識できる。

6. 保育所、各小学校及び保小中一貫教育推進委員会の役割

保育所や各小学校では、保小連携の担当者を決め、体制整備を図るとともに、活動を年間計画に位置づけるなど、組織的かつ計画的に行うことが大切です。その際、園児、児童の交流活動と職員の交流を年間計画に位置づけたり、園児、児童の交流活動を通して職員が相互の教育内容等について理解を深めたりするなど、以下①～④に示す内容を相互に関連させる必要があります。特に、保育所、小学校での実践状況の把握とカリキュラムの検証、園児、児童の交流活動及び職員の連携・交流については、日野町保小中一貫教育推進委員会の担当部会を中心としながら、保育所、各小学校が一体となって取り組んでいくことが重要です。

①保育課程・教育課程の編成や指導方法の工夫、改善

保育所では小学校以降の生活や学習の基盤となる「現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎」を育成しています。例えば、遊びを通して園児が学ぶ楽しさを知り、積極的に物事に関わろうとすることは小学校での学習意欲につながります。また、他者への思いやりや感動する心等の豊かな心や健やかな心と体も育成しています。小学校では幼児期の教育との円滑な接続を意識し、生

活科を中心とした合科的な指導を行っています。これらを踏まえつつ、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に資するよう、保育所、小学校において、保小接続カリキュラムのみにとどまらず、保育課程・教育課程全体の編成や指導方法を工夫することが大切です。

具体的な指導方法の工夫としては、年長児の時期には小学校への入学を念頭に、話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるように指導を重ねていくことなどが考えられます。さらに、ともに協力して目標をめざすということは、幼児期の教育から小学校教育へとつながっていくものなので、保育所の生活の中で協同して遊ぶ経験を重ねることも大切です。

一方、小学校では、保育所で遊びや生活を通じて学んだことを先行経験として生かしていくことが考えられます。また、第1学年では幼児期の教育との円滑な接続を意識した教育課程を編成したり、低学年では具体的な体験を重視した活動を取り入れたり、生活科を中心とした合科的な指導を行うことなどが考えられます。また、保育所の施設から小学校の施設への変化、時間割を中心とした学校生活への変化等に対応した、具体的な配慮も求められます。児童一人一人の育ちや支援などについては、保育所児童保育要録や個別の指導計画等の引継、保小連絡会等を通じて、個に応じたきめ細やかな指導の継続性を図っていく必要があります。

②園児、児童の交流活動

園児と児童と一緒に活動し双方にとって意義のある交流活動となるようにするとともに、継続的に取り組み、交流が深まるようにすることが大切です。そのためには、相互のねらいに対応した活動となるよう指導計画を作成したり、教材研究を深めたりするなど、事前事後の打ち合わせ等を行うことが大切です。保小中一貫教育推進委員会の担当部会や保育所、小学校の担当学年だけでなく、全職員の理解の下に行うことが重要であり、園児、児童の長期的な発達の見通しや指導について考えることが大切です。

③職員の連携・交流

発達や学びの連続性を確保するため、相互の教育内容や指導方法の違いと共通点、園児や児童の実態について理解を深めることが必要です。そのためには、保育士と教員の意見交換、合同の研究会や研修会、保育参観や授業参観、保育参加等、相互理解の機会を設ける必要があります。

④保護者、家庭、関係諸機関との連携

園児だけでなく保護者も安心して小学校入学を迎えることができるよう、小学校における学習や生活について情報提供するなど、保護者に対しての支援も大切です。また、発達障がいを含む全ての障がいのある園児の幼児期から義務教育段階への円滑な接続にあたっては、家庭や医療、福祉等の関係機関と連携することも大切です。

7. 保小連携プログラムのイメージ図 教育目標：心豊かに たくましく羽ばたく 日野の子の育成

日野町学びの基礎を育むプログラム 育てたい4つの力

基本的な生活習慣 コミュニケーション力 自尊感情 セルフコントロール力

知識及び技能の基礎
思考力、判断力、表現力等の基礎
学びに向かう力、人間性等

遊びを通しての総合的な指導

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等
学びに向かう力、人間性等

学校教育全体並びに各教科等の指導

育みたい資質・能力



園児、児童の交流活動

職員の連携・交流

学習や活動を通じた交流、互恵性のある活動（年長児と1年生、5年生との交流、体験入学 等）
保小連絡会、合同研修会、保育参加、保育参観、授業参観、保育所・小学校コーナーの設置、たよりの交換 等

スローガン：『遊びの中の豊かな学び』を『主体的な学び』へとつないでいこう！

Ⅲ－１ 保小接続カリキュラム

1. 幼児期の教育から小学校教育へ

領域	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		小学校教育で実現をはかる事項	教科等
健康	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用し課題解決を図るために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付ける。 主体的に学習に取り組む態度を身に付ける。 個性を生かし多様な人々と協働する。 <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性を涵養する。 <ul style="list-style-type: none"> 日常生活において適切な体育・健康に関する活動を実践し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を身に付ける。 	各教科 特別の教科 道徳 外国語活動 総合的な学習の時間 特別活動
	自立心	<ul style="list-style-type: none"> しなければならないことを自覚し、考えたり、工夫したりしながら、やり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。 		
	協同性	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、やり遂げるようになる。 		
人間関係	道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。 友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。 		
	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。 情報を役立てながら活動するようになるとともに、社会とのつながりなどを意識するようになる。 		
環境	思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。 新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。 		
	言葉	自然との関わり・生命尊重		
表現	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。 		
	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。 		
	豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。 		

2. 保小連携の3つの視点

「遊びの中の豊かな学び」を「主体的な学び」へとつなぐために、『学校生活適応』『学びの連続性』『互恵性』の3つの視点を設定し、保小接続カリキュラムを作成しています。

- A 学校生活適応…生活習慣・運動・健康・体力、活動の広がりへ
- B 学びの連続性…遊びの中の豊かな学びから主体的な学び、確かな学力へ
- C 互恵性…人との関わり、協同性の育ち、豊かな人間性の育成

3. 保小接続カリキュラムの定義等

(1) アプローチカリキュラムの定義

本プログラムでは、幼児期の教育の最終段階である年長児の1月から3月期について作成した接続カリキュラムを「アプローチカリキュラム」と呼んでいます。

幼児期の教育は、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うものであり、学校教育における生活や学習の基礎となっています。そこでは、小学校、中学校へと続く子どもの発達を見通し、遊びを通した総合的な指導により、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を養っています。これらの育みたい資質・能力は、幼児期にふさわしい環境の中で、遊びを通しての総合的な指導の中で育てていくことが重要です。



このようなことから、「アプローチカリキュラム」は、小学校教育に適応するための準備ではなく、幼児期に育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、一人一人にその力が育っているかを確認しながら、学校教育へと円滑につないでいくためのカリキュラムととらえることが重要です。

また、「アプローチカリキュラム」を作成している期間は卒園前の3か月間ですが、そこに至るまでの期間においても、幼児期に育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にした上で、接続期、小学校教育を考慮した保育課程を編成し、確実に実践していかなければなりません。

(2) アプローチカリキュラム実施にあたっての留意点

- ①小学校で学習することを前倒しで実施するのではなく、「やりたい」「伝えたい」という気持ちから、小学校で学習するような内容について「知りたい」「使いたい」という気持ちが高まるように指導を工夫する。
- ②「遊びきる」活動を充実させることを通して、セルフコントロール力を養う。
- ③アプローチカリキュラムの内容、工夫や配慮、及び、実践時の園児の様子について、保護者に伝える。

(3) スタートカリキュラムの定義

幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程等に基づいて実施されています。一方、学校教育は、各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。このことが幼児期の教育と学校教育の大きな違いと言えます。

児童はすでに幼児期の教育において、遊びを通して試したり、工夫したり、友達と協力したり、自分の思いを伝えたり、話をしたりするなど、たくさんを経験してきました。そのような幼児期からの学びと育ちを生かす活動や環境を意図的に設定することで、児童は自信や意欲をもって活動し、自己発揮することができるようになります。また、このような姿が、先生や友達に認められることで、自己肯定感が生まれ、よりよく成長していくこともできます。



本プログラムでは、小学校入学から10日間に実施する合科的、関連的な接続カリキュラムを「スタートカリキュラム」と呼んでいます。この期間に、幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境づくりをしたりすることで、児童は安心して小学校での生活をスタートすることができます。そこで、児童は、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出すことへの意欲をもち、そのことが小1プロブレムの予防や解決にもつながります。入学当初のこの時期に大切なことは、遊びの中から獲得した豊かな学びを主体的な学びへと連続させることです。生活科を核としながら、幼児期に総合的に育まれた資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく実践が望まれます。

(4) スタートカリキュラム実施にあたっての留意点

- ①保育所での経験や学びを生かして、楽しさや喜びを味わうことができるように計画・実践して、次第に学校生活や学習に適応していくように工夫する。
- ②指導の効果を高めるために、合科的・関連的な指導ができるように編成する。
- ③体験的な活動を多く取り入れ、環境や経験から学ぶひのっこ保育所での学び方を生かす。
- ④スタートカリキュラムでの予定、工夫や配慮、及び、実践時の児童の様子について、保護者に伝える。

4. 保小連携3つの視点からのアプローチ

A 学校生活適応

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>健康</p> <p>うげんきじっぱい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培・収穫（じゃがいも・さつまいも・ブロッコリー・玉ねぎ・トマト・きゅうり・なす・オクラ、よもぎ摘み等） 畑でとれた野菜の調理や紹介 関連ある本の読み聞かせ「じゃがいも」「さつまいも」 誕生会 	<p>行事食</p> <ul style="list-style-type: none"> 春の七草  <p>「いのちをいただく」本や紙芝居の読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> もちつき（地域の方と一緒に、きねとうすで、もちつき・もちもみ） クッキング（ご飯・米ぬかふりかけ・クッキー・ご飯とみそ汁とおかずづくり） 	<p>⇒生活科の栽培活動</p>  <p>⇒「いただきます」の意味</p> <p>⇒読書指導、本の紹介、読み聞かせ</p> <p>⇒誕生日カード、学級での誕生会、掲示</p> 	
<p>食育</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間内（30→25分）に残さず食べる。給食当番が配膳をすすめる。 当番は、給食スモックエプロン、帽子、マスクをつける。 食器や箸の持ち方、マナーに気を付けて食べる。 	<p>⇒給食指導 25分から20分で残さず食べる。上級生から配膳の方法を教わり給食当番をする。</p> <p>⇒給食当番は白衣・帽子・マスク、取りに行く人も帽子・マスクをつける。</p> <p>⇒食器や箸の持ち方、姿勢・マナーに気を付けて食べる。</p> 	<p>⇒給食指導 25分から20分で残さず食べる。上級生から配膳の方法を教わり給食当番をする。</p> <p>⇒給食当番は白衣・帽子・マスク、取りに行く人も帽子・マスクをつける。</p> <p>⇒食器や箸の持ち方、姿勢・マナーに気を付けて食べる。</p>	

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム運動（ワニ・アヒル・オットセイ・背泳ぎ・馬・キリン・カメ・ブリッジ・ザリガニ・トンボ・時計・ストレッチャ等）   <ul style="list-style-type: none"> ・縄跳び（短縄・長縄） ・ボールを使った遊び（ころがしドッジ、サッカー、ボール投げ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでの水遊び ・雪遊び、そり遊び ・サーキット（障害物：マットの上でブリッジ、ジャンプ台・平均台、水の入ったペットボトル運び、上に放り投げた玉のキャッチ、フラフープくぐり） ・マラソン450mコース 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒体育・業間活動・放課後の活動で継続 ⇒姿勢維持 ⇒粗大運動から微細運動 ⇒握力アップの取り組み（※握るおもちゃや握力計の設置、手押し車等腕力をつける運動）  <ul style="list-style-type: none"> ⇒業間活動：マラソン、みんなでジャンプ長縄、短縄、遊びの王様ランキンダに挑戦する活動等 ⇒ボール運動、ボール遊び ⇒器械運動 ⇒体力テスト 	
安全	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導（毎月） ・ルールの確認 <p>（1月の例：保護者等と手をつないで駐車場から歩いて保育所へ来る。ポケットから手を出して歩く。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 <p>（火事・地震・台風・豪雪・不審者対応等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全かかると ・交通安全教室 <p>（パトカー・消防車乗車体験）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⇒交通安全教室、交通安全指導 ⇒交通ルールの確認 ⇒集団登校の集合場所、集合時刻の確認 ⇒登校班の話し合い ⇒とび出し注意 ⇒危険回避の取り組み ⇒避難訓練 	

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>生活習慣</p> <p>くみにつけよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き（9時就寝、6時起床）・朝ご飯・履き物そろえ ・自分で起きる。 ・フッ素洗口（毎朝右 10 秒左 10 秒上 10 秒下 10 秒全体 20 秒）、歯磨き（砂時計で3分） ・自分で用意して毎日ハンカチを持つてくる。 ・自分で考えて伝えたり用意したり見通しをもって行動したりする。 ・時間を意識して行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・うがい・マスクの着用 ・身のまわりの片づけ・整理整頓・掃除 ・あいさつの仕方・返事・入室の仕方  <ul style="list-style-type: none"> ・ひも結び ・縄跳び結び ・こまのひも結びやこま回しのひもの使い方 ・エプロン・三角巾の結び方 ・自分の食べられる量のご飯を弁当箱に自分でつめてくる。 ・朝、通園バックに自分でタオルやコップ、弁当やお茶、ノート等を入れ、帰ったら自分で出して箸や弁当箱を洗う。 	<p>⇒早寝・早起きの習慣化（起床・就寝時刻）</p> <p>⇒あいさつ・返事・履き物そろえ</p> <p>⇒メデイアとの付き合い方</p> <p>⇒フッ素洗口、給食後歯磨き時、砂時計の利用</p> <p>⇒くつひも・縄跳び結び</p> <p>⇒生活：昔の遊び、こま回し</p> <p>⇒生活、全校もちつき、家庭：エプロン・三角巾の脱着</p> <p>⇒自分でハンカチ・ティッシュ・歯磨きセット・給食セット・白衣の準備</p> <p>⇒自分で考え見通しをもった言動</p> <p>⇒時計を見ながら時間を意識して行動する。</p>	

B 学びの連続性

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>真欲</p> <p>くおもしろそうだな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外遊び（ころがしドッジ、遊具太鼓橋渡り・ジャンゲルジム・鉄棒・砂場・スクーター・サッカー・竹馬・竹ぼっくり・大縄跳び、鬼ごっこ、タイヤ跳び、築山、ブランコ等） ・ 遊戯室での遊び（おしり鬼ごっこ障害物サーキット、ボール遊び等） ・ 室内遊び（カプラ、ラキュー、ロンディ、プリズモ、絵、造形）、ハリガリ（5の合成と分解）、虹色のへべビゲーム、折り紙 ・ 楽器遊び（鈴、木琴、グロツケン、カスタネット、タンブリン） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩で植物・生きもの探検、観察 ・ こま回し、けん玉、たこあげ、そり ・ すごろく、かるた、ビンゴ、伝言ゲーム、トランプ、なぞなぞ（ヒントや説明を紙に書く）、しりとり、指先ではじく力を鍛えるカエルジャンプ、あやとり、版画、おにのお面づくり ・ かぶつちやだめよゲーム、ゆびスマ、木のおもちゃ ・ 交流（1年生・5年生や中学生、高校生）、体験入学 	<p>⇒生活：学校のまわりの植物・生きもの探し、観察、昔の遊び、郵便局</p> <p>⇒学活：学級遊びや交流の計画・話し合い</p> <p>⇒体育：鬼ごっこ、ボール運動、鉄棒、タイヤ跳び、表現運動</p> <p>⇒図工：材料準備、工作・造形</p> <p>⇒算数：数への興味、数の合成・分解</p> <p>必然性のある数の数え方や日常生活に結びついた算数的思考</p> <p>⇒国語：絵と説明文で見る人に分かりやすく書くこと</p> <p>⇒音楽：歌、楽器演奏、鑑賞、身体表現</p> <p>⇒教室に設置のカード遊びや遊具</p> <p>⇒保小交流活動、小小交流活動</p>	
<p>探究心</p> <p>くどうしてかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考える、試す、工夫する。 ・ よりよくするためにみんなで考える。 ・ うまくいかないとき、失敗したとき、あきらめないで考える、試す、工夫する、アドバイスをもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然物の感触や特徴に気付いたり、調べたりする。（本、植物図鑑、昆虫図鑑） ・ 自然物で遊んだり身近な自然とふれ合ったりして、季節の移り変わりに気付く。 	<p>⇒生活：本やポケット図鑑、植物はかせ・昆虫はかせで調べる、ワークシートに絵や言葉でまとめる、草花遊び、飼育・栽培活動、探検・観察</p> <p>⇒道徳：自分でやることはしっかりと、よいことは進んで行う。</p> <p>⇒うまくいかないとき、自分たちで考えた話し合ったりする時間をもつ。</p>	

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>表現 く伝えたいな知りたいたいなく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさを伝える。(朝の以上見合同活動、帰りの会) ・大きくなったらなりたい職業(自分の誕生月の誕生会で発表) ・卒園文集に絵と言葉で書く。   	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居、紙版画に表す。 ・卒園文集づくり ・個人発表会(個人により様々：ピアノ、木琴、鉄琴、けん玉、フラフープ、などなど、紙芝居等) 交互司会・自己紹介・あいさつ  	<p>⇒よいこととみつけ、感想</p> <p>⇒国語、生活科：絵本や紙芝居づくり</p> <p>⇒キャリア教育、将来の夢・希望・目標めあてカード目標設定</p> <p>⇒通信や教室掲示で紹介</p> <p>⇒校内文集等</p> <p>⇒自分の特性を踏まえた自己実現</p> <p>⇒学習発表会、6年生を送る会</p>  <p>⇒図工：工作(必要な材料・用具準備)、紙版画</p> <p>⇒発表会演技の小道具づくりや背景づくり</p> <p>⇒個人のめあて、学級のめあて、学校全体のスローガン</p>	

観点	年間を通して	春夏秋冬	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>学習規律</p> <p>くちあがんばんろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いすに座る姿勢「足はぺったん、背中はピン、おなかと背中にグー1つ」 ・右手を挙げる。 ・動きを止めて、相手の方を見て聞く。 ・手はひざの上に置く。 ・あてられたら、返事をして立ち3の声で言う。 	<p>春夏秋冬</p> <p>季節ごとで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～です」を語尾につけて言う。 ・マナー豆つかみ遊び 	<p>小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動</p> <p>⇒学習に必要なまきを知り、守る（手の挙げ方、発表の仕方、いすの座り方・しまい方・持ち方、話の聞き方）</p> <p>⇒いすに座る姿勢「足はぺったん、背中はピン、おなかと背中にグー1つ」</p> <p>⇒15分から20分集中して取り組む。</p> <p>さらに45分間集中して学習に向かえるようにする。</p> <p>⇒友達や先生に対して、ていねいな言葉づかいをする。</p> <p>⇒教科書やノート、筆記用具等学習用具の使い方を知り、大切に使う。</p> <p>⇒鉛筆の持ち方「つまんでまくら」</p> <p>⇒全校豆つかみ大会</p> 	<p>実際の小学校生活での実践◎や課題☆</p>

C 互恵性

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>自己発揮</p> <p>～みじ、まじし～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ集め当番 ・お手伝い隊 ・ゆうびん当番 ・給食当番  <ul style="list-style-type: none"> ・交流の招待状やお札の手紙やカード 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の組へ絵本の読み聞かせ隊 ・やりたい遊びに夢中になる。 ・友達と一緒にがんばるよさを感じながら、自分の力を発揮する。  <ul style="list-style-type: none"> ・長縄跳び（8の字跳び、数の記録に挑戦、みんなまでジャンプ） ・交流（1年生・5年生や中学生、高校生）、体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒国語の音読・読書・選書・本の紹介・読み聞かせ ⇒片づけ、整理整頓、ごみ捨て ⇒最後まで取り組む。 ⇒業間活動：遊びの王様ランキング縄跳び、風船バレー等  <ul style="list-style-type: none"> ⇒保育所年長児との交流活動 ⇒小小交流活動 ⇒6年生とのかかわり・ペア活動 	

観点	年間を通して	春夏秋冬 季節ごとで	小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動	実際の小学校生活での実践◎や課題☆
<p>観点</p> <p>協同性</p> <p>〜いっしょにやるのよ〜</p>	<p>年間を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の活動（以上児全員） 朝の活動のふり返り（友達のがんばり・よかったことの感想発表） 終わりの会で、一日の感想発表と友達のよかったことの発表をする。 	<p>春夏秋冬 季節ごとで</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の活動（移行期 2 月から全園児で） 朝の活動の司会（各組その日の当番） 話し合いを重ねる。 ペープサートの人形劇（自分たちで話のあらすじを考えてつくり上げ、全園児と保育者に披露） みんなで流れを確認したり、一人一人が自覚して自己発揮できるように工夫したりする。 折り合いをつける。合体系 多数決で決める。 役割分担をする。 	<p>小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達や先生に親しみをもって接し、一緒に学習や生活を楽しむ。 思いやりをもって接する。 終わりの会で友達のよいこととみつけ 国語・生活：ペープサートでの表現 学習発表会 6年生を送る会   <ul style="list-style-type: none"> 折り合いをつけて生活する。 当番活動・係活動での協力 	<p>実際の小学校生活での実践◎や課題☆</p>
<p>きまり</p> <p>〜たのしいね〜</p>	<p>年間を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> 命の大切さ 安全の大切さ 人を大切に思いやる言葉 	<p>春夏秋冬 季節ごとで</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びのルールづくりや新しい遊びづくり、話し合い 	<p>小学校の生活や教科学習へつなぐ体験や活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校のきまりを守り、みんなでするものや場所を大切にすること。 善悪の判断。よいと思うことを進んで行う。 学校生活を楽しくするためのルールを相談してつくる。 みんなが安全に楽しく活動するためのルールづくり 	<p>実際の小学校生活での実践◎や課題☆</p>

5. アプローチチャリキュラム (1) 指導計画

1月

活動名	ねらい	10の 茎	育て いカ	主な内容	環境・構成	連携に向けた保育士の援助 (3つの視点との関連)	関連する行事
自分の身を 守ろう	<ul style="list-style-type: none"> 色々な活動や体験を通して、危険なことから身を守り、安全な行動がとれる。 健 自分でよいこと悪いことを判断し、危険のないよう行動する。 ④ 	ア エ	1, 4	<ul style="list-style-type: none"> 安全かるとを楽しむ。 火災のときの避難の仕方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全かるとを設けた置き場に設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてクラス全体で考え、安全意識を高め自分の身を守るとともに、まわりの安全をも考えて行動できようにしていく。 A C 	火災避難訓練
寒さに負けない丈夫な体をつくらう	<ul style="list-style-type: none"> 寒さに負けず積極的に体を動かす。 健 体力・運動能力を高める。 健 自分の体に関心をもち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 健 	ア	1	<ul style="list-style-type: none"> 戸外遊びや、マラソンを楽しむ。 手洗いうがいの練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊戯室や園庭にローンを準備する。 「早寝、早起き、朝ご飯、履き物そろえ」の大切さについて話をする。 冬の感染症について通知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす遊びを工夫し楽しさを味わえるような時間設定をする。 B 生活習慣を整え、生活リズムの大切さを分かりやすく伝えていきながら、進んで行う姿はほめてクラス全体に伝えていく。 A ねらいによる方がいいの方法の違いを理解できるように、その都度知らせていく。 A 	
友達と一緒に正月あそびを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> 友達の中で自分の思いを主張したり、認め合ったりしながら遊びや活動を発展させる。 ⑤ ⑥ 正月遊びを十分に楽しむ中で、用具を大切にしたり決まりの大切さに気付き守ろうとしたりする。 ④ 	ウ エ	234	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや活動の中で感想を発表したり相談したり話し合ったりする。 正月遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想を発表したり話し合ったりする場を設定する。 大縄跳び、短縄 かるた、すごろく、こま、けん玉等正月の遊び道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が思いを出し合い、よさを認め合って遊びや活動が進められるよう、必要に応じて助言したりヒントを出したりする。 A B 率先して遊ぶとともに、冬休み中に正月遊びを体験した子供の姿も引き出し、他の子どもへの刺激にしていく。 B C 	大縄跳び披露 紙芝居発表会 (個人技) かるた取り会
地域のひとと一緒に楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> 地域の様々な人と関わり親しみをもち。 環 	オ	2, 3	<ul style="list-style-type: none"> 高校生との交流を楽しんだり、地域の人から餅つきのやり方を教わったりする。 		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちに共感しつつ、喜びや悲しみを感ずる場面やその表現に注意を払い、思いやりの気持ちを育てていく。 A 	餅つき大会

文字・数・量 図形を使っ たあそびを 楽しもう	・毎日の生活の中で文字・数 量・図形等への関心を深め、 それらを使った遊びや生活 を楽しむ。環 姿	カ ク	1	・時計を見ながら時間を 意識して生活する。 ・形づくり・パズル	・時計の模型や数と ひらがなの積木等 をいつでも見られ るところに設置す る。	・一人一人の理解に志じ、必要な読み 方や意味を分かりやすく伝えてい く。B	数字の歌
冬の自然を 感じ行事を 楽しもう	・冬の自然や季節の行事への 関心を深め、冬らしさを感じ 取る。環	キ	3	・以上児によるかるた 取り会や餅つき会、七 草粥等の行事を楽し む。 ・冬らしい事象を見付 けることを楽しむ。	・様々な機会に、季 節や行事に対する 話題を提示する。 ・散歩や戸外遊びの 時間を確保する。	・話の中に伝統行事の話題を取り入 れ、関心をもたせようにする。B ・戸外遊び等で自然の変化に気付かせ ていく。C ・見付けたときの喜び、触った感触、 集める楽しさ、調べる発見等、その 日その場のタイムミングを逃さず取り 入れていく。B	たきび、お 正月、雪等 季節の歌 かるた取り 会 餅つき会 七草粥
言葉や文字 で伝えよう	・言葉や文字で伝える楽しさ を味わう。音 ・考えや思いを言葉でやり取 りする。音 音	ケ	2, 3	・したことや感じたこ とを話して伝え合っ たり、文字に書いて伝 えたりすることを楽し む。	・ひらがな積木や 表、カード等を用 意し、いつでも見 られるように設置 しておく。 ・活動の後や終わりの 会等で思いを伝 え合う場を設定す る。	・筋道や考えを整理して、相手に分か るようには話すればよいか を一緒に考え、必要に応じ適切な言 葉を補っていく。A B	紙芝居・絵 本づくり、 紹介
絵本を楽し もう	・絵本を見たり聞いたりして 想像する楽しさを味わう。音 姿	ケ	2, 3	・お話会や司書、保育 士よる読み聞かせを 楽しむ。	・読み聞かせを受け た本を室内や園内 に掲示し、何度も 手に取れるコーナ ーを設置する。	・話の内容を吟味して、興味をもって 物語の世界が楽しめるようにしてい く。B	お話会
歌って踊っ て楽しもう	・歌を歌ったり好きな曲を聴 いたりして音楽の楽しさを 味わう。環 姿	コ	3	・歌やダンスの会で音 楽の楽しさや体を使 った表現を楽しむ。		・一緒に歌ったり踊ったりするととも に、聞いた曲や聞かせたい曲を食事 中にかける等し、音楽に親しむ機会 を多く設ける。B C	歌の会 ダンスの会

つくって楽しむ	色々な素材を用い、試したり工夫してつくったりすることを楽しむ。 環境	コ	3	・お正月休みにしたことの絵をかいて楽しむ。	・色紙や画用紙の切れ端、様々なペン等を手にとれるように準備しておく。	・道具の使い方、片付け方等、必要に応じて知らせていく。 [A] [B]	
---------	------------------------------------	---	---	-----------------------	------------------------------------	-------------------------------------	--

2月

活動名	ねらい	10の タ	育 た い 効	主 な 内 容	環 境 ・ 構 成	連 携 に 向 け た 保 育 士 の 援 助 (3つの視点との関連)	関 連 す る 行 事
自分の身を 守ろう	・危険が分かり、自分で注意して安全な生活の仕方を身に付ける。 健 ・よいこと悪いことを自分で区別し、進んでよいことを行おうとする。 ④	ア エ	1, 4	・豪雪の際の避難について大切なことを知り練習する。 ・バスの乗り降りの体験をする。 ・交通安全教室で腹話術を聞いたり、横断歩道の渡り方の練習をしたりする。	・バス運転手による乗り降りの際気をつけての話をしてもらうように依頼しておく。	・危険な行為や場所、よいこと悪いことについて具体的な場面をとらえて気付け、必要に応じてクラス全体でも考える。その際、表面的な行動にとどまらないう園児の気持ちをくみ取りながら具体的な行動の仕方を考えていく。 [A]	豪雪の避難訓練 小学校体験入学 交通安全教室 ・腹話術 ・横断歩道の渡り方 実施指導 いかのおすし
寒さに負けない丈夫な 体をつくら う	・寒さに負けず、進んで戸外で体を動かす遊びを楽しむ。 健 体力・運動能力を高める。 健 環	ア	1	・ボールつき、長縄跳び、しっぽとり等の遊びを経験する。	・玩具や用具、場所や時間を確保しておく。	・登所後の片付けを時間内に行うことにより、進んで遊びに取り組めるよう言葉かけをしていく。 [A] [C]	
給食当番を してみよう	・給食当番をし、清潔や身支度に注意しながら、配膳の仕方を身に付ける。 健	ア	1	・全員が給食当番の身支度と配膳練習を体験する。 ・食事の仕方の決まりについて確認する。	・家庭や給食室に理解と協力を求め、自分たちで支度や配膳ができるよう机を用意する。	・体験入学に向け、給食当番を経験することにより、小学校生活への不安を取り除けるようにする。 [A] [C]	小学校体験入学 (手洗い、爪の検査、マスク・帽子・エプロンの準備)

友達と話し合おう 認め合おう	友達の中で自分の思いを主張したり、認め合ったりしながら活動を発展させ、充実感を味わう。④ ⑤	ウ	234	遊びや活動の中で感想を発表したり話し合ったりする。	感想を発表したり話し合ったりする場を設定する。	よい姿は大いにほめ、クラス全体にも伝え広めていく。④ 終わりの会や活動の振り返り等を通して、友達のよさに気付く、認める、受け入れる様子を認め、他者の個性や存在を大切に促す。④ ⑤	
異年齢の友達と交流しよう	異年齢児と積極的に関わり、年長者に対しては憧れと尊敬の気持ち、年少者には思いやりやいたわりの気持ちをもつ。④	オ	234	それぞれが入学予定の小学校で体験入学をし、小学生と交流する。 日野中・日野高の生徒たちと交流する。	体験入学を楽しめるよう、小学校担当者や事前の内容について打ち合わせをしておく。また、園児の実態等を情報交換しておく。 お世話になった中・高生に気持ちを伝える方法を考える。 こま回しや食育広場等異年齢児との日常的な交流の場をつくる。	一人一人の思いが生かされているか、よさを認め合っているか等把握しながら、必要に応じて助言していく。④ 異年齢児との交流を通して子どもへの気付きや発見に共感すると同時に、気付きにくい小さな成長の様子を子どもに伝え、就学に向け、成長を自覚させる。④ ⑤	小学校体験入学交流会(日野中・日野高)
お家の人の気持ちを伝えよう	保護者に成長の様子を見てもらい、これまでの感謝の気持ちを伝える。④ ⑤	イ オ	234	保護者参加日にお茶会を行い、もてなして感謝の気持ちを伝えることを楽しむ。	仕事の割り振りを相談させたり、お茶会の練習をしたりする場を設定したりする。 ザリガニの水槽や、チューリップの植木鉢を見えやすい場所に設置しておく。	それぞれが感謝の気持ちを伝えられるよう、一人一役を割り振ったり、自信をもってお茶会ができるよう、練習を重ねさせたりする。④ ⑤	保護者参加日お茶会
身近な動植物に親しもう	身近な動植物の世話を通して、成長や変化を感じるとともに、生命の尊さを知る。④	キ	3	戸外遊びや遊び時間等に身近な動植物の観察をする。		保育士の気付きを投げかけ、興味関心をもてるように促す。④	

時間を知り行動しよう	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活の中で、文字、数量、時間等に関心を深めるとともに、時間を意識して行動する気持ち育てる。 ㊦ 	ク	1	<ul style="list-style-type: none"> 時計を見ながら時間を意識して生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな積木、カレンダー、時計、時計の模型を見えやすいところに設置したり掲示したりしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> かるたやすごろく遊びやカレンダー、時計等の身近なものを通して、文字や数量・時間等への関心を高めていく。 ㊦ 食事の終了時間を、時計を見ながら数字で伝え、時間を意識した行動ができるよう働きかける。 ㊦ 	
季節の変化を感じよう	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象の変化に気付き、冬から春への季節の変化を感じ取る。 ㊦ 	キ	3	<ul style="list-style-type: none"> 凍結、降雪の観察をする。 空き容器を使った氷づくりや散歩中の新芽等の発見をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に使える空き容器やひも等を用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外遊び等で自然の変化に気付かせていく。 ㊦ 見付けたときの喜び、触った感触、集める楽しさ、調べる発見等、その日その場のタイムミングを逃さず取り入れていく。 ㊦ 	日野高との交流会
言葉や文字で気持ちや伝えよう	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や文字を使って遊びを広げ、伝える楽しさを味わう。 ㊦ 	クケ	2,3	<ul style="list-style-type: none"> 高校生へお礼の手紙を書いたり感想や感謝の言葉を伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に使える三角鉛筆、ひらがなカード等を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話が整理できない場面や適切な言葉が見付からない園児には、適切な言葉を補っていく。 ㊦ 	
文字を書いたり読んだりしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 状況・場面・相手に応じた適切な言葉を使う。 自分の名前や簡単な伝言を書いたり読んだりしようとする。 ㊦ 	ケ	2	<ul style="list-style-type: none"> 作品に名前やメモをする。 		<ul style="list-style-type: none"> 筋道や考えを整理して、相手に分かるように話すことを促す。 ㊦ 	
絵本やお話を楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や物語、素話を見たり聞いたりし、お話の世界に親しみをもち、想像する楽しさを味わう。 ㊦ 	ク	3	<ul style="list-style-type: none"> お話会や司書、保育士による読み聞かせを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの本を室内や園内に置き、何度も手に取れるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すときの口の開け方や姿勢等にも気付けさせていく。 ㊦ 相手に体を向け最後まで黙って聞く姿勢も育てていく。 ㊦ 	お話し会
気持ちを込めて歌おう	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の意味を知り、気持ちを込めて歌う中、今の自分の気持ちを歌で表現する楽しさを味わう。 ㊦ 	コ	3	<ul style="list-style-type: none"> 歌の会や部屋で気持ちを込めて歌う楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌って聞かせ、新しい曲への関心を引き出す。 ㊦ 	歌の会

つくって楽しむ	遊びや生活に必要なものを工夫してつくる楽しさを味わう。環境	コ	3	参加日に保護者と雛飾りをつくって楽しむ。	制作への意欲を喚起できるよう雛飾りを園内に掲示する。 制作の喜びを味わえる掲示コーナーを設置する。 作品を室内飾りとして使用する。	・実物や写真等制作の手掛かりとなるものを示し、見通しをもつてつくっていくようにする。B ・制作を通して認め合える関係が深まるような雰囲気をつくる。B C	参加日
発表会しよう	友達と一緒に考えたり工夫したりして取り組む楽しさを味わう。環境 ・友達と互いのよさを認め合い自信をもって取り組む。 ・人前で自分を表現し、達成感を味わう。姿	ウ オ カ ク ケ コ	234	・見に来てくれた人とのやりとりを楽しむ。 ・一生懸命にやり遂げようとする。 ・園児同士で認め合う。 ・人形劇を協力し合って進める。	互いに見合えるような場所の構成をする。 友達と一緒に考えたり工夫したりして会を進めていくよう、時間に余裕をもつ。	・異年齢の友達や全職員に、保育所生活で得た自分の得意なこと頑張ってきたことなどを発表したり、感謝の気持ちを伝えたりできるよう援助する。B ・口の開け方や姿勢に気を付けながら友達や保育者の前で話す場を設け、援助する。A B ・友達の発表を見て、認め合ったり協力し合ったりして会を進めていくよう援助する。C	

3月

活動名	ねらい	10の姿	育て方	主な内容	環境・構成	連携に向けた保育士の援助 (3つの視点との関連)	関連する行事
自分の身を守ろう	・危険を招く事態が分かり、安全な生活の仕方を身に付ける。健 ・自分でよいことと悪いことを判断し、行動しようとする。心	ア	1, 4	・煙が充満しているときの避難方法や体への対応火がついたときの対処方法を学ぶ。		・登所降所時や生活の中で危険な行為や場所、よいこと悪いことについて、一人一人、またクラス全体で考え、安全を意識した行動がとれるよう言葉かけをしていく。A ・自主的にその場にふさわしい行動がとれたときには大いにほめ、しっかりと認めたりえでクラス全体に伝え広めていく。A	煙による災害の対応をする避難訓練

思い切り体を動かして楽しもう	・進んで体を動かし、体力を高める。 健 込	ア	1	・戸外での遊びや転がしドッジボール・しつぽとり・長縄等の遊びを楽しむ。	・身体を動かすことの楽しさを十分の間や場所を確保する。 ・玩具・用具を確保しておく。	・体を動かす遊びを工夫し楽しさを味わえるよう十分な時間設定をする。 健 込	
病気に負けない体をつくろう	・健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 健 環	ア	1	・手洗い・うがいの習慣を身に付ける。	・通信で保護者への働きかけを行う。	・園生活や学校生活に必要な習慣や態度を分かりやすく伝えていく。 健 込	
友達と話し合おう	・友達との関係を深め互いに認め合いながら活動を発展させ、充実感を味わう。 健 環 ・就学への期待と自覚、見通しをもって生活する。 環	ウ オ	234	・遊びや活動の中で感想を発表したり相談したり話し合ったりする。	・感想を発表したり話し合ったりする場を設定する。	・小さな感情表現も見逃さず、喜びや悲しみ等多様な感情に共感することにより、卒園や就学の不安を取り除く。 健 込	
まわりの人に感謝の気持ちを伝えよう	・入学に期待をもち、卒園に向けてみんなで取り組む意欲を育てる。 環 ・年下の子どもにも優しさやいたわりの気持ちをもち、進んで関わる。 健 込 ・いろいろな人がいて生活できていることを知る。 環 ・保護者や園、お世話になった人達への感謝の気持ちを伝える。 健 環	イ ウ オ	2, 3	・卒園記念プレゼントをつくって在園児や保護者に渡すことを通じて感謝の気持ちを表す。 ・様々な会の終わりにお世話になった方へ感謝の歌と言葉によるプレゼントをする。	・卒園までの行事や取り組みを記入したカレンダーや表を提示する。 ・感謝の歌と言葉をプレゼントでできる時間と場を設定する。	・もうすぐ1年生という喜びや緊張感を受け止めながら、卒園までの課題や予定をクラス全体及び個々に伝え、一人一人が生活の目標を持って自主的に行動できるようにしていく。 健 込	お別れ会 卒園式 食育の会 お話し会
時間を考えて行動しよう	・身近にある文字や数字、また時間に関心をもち、理解を深めていく。 健 環	ク	1	・時計を見ながら時間を意識して生活する。	・目標時間が意識できるよう時計の模様を常設しておく。	・学習用の時計を使って、時間が分かるように示すとともに時間を意識して行動ができるように働きかける。 健 込	
身のまわりをきれいにしよう	・自分たちが生活してきた保育室の清掃や身近なものを整頓する。 健 環	オ	3, 4	・毎週の掃除とは別に、時間を設けて主にロッカーや道具入れ、床等を丁寧に掃除する。	・全員にいきわたるよう掃除道具を準備する。	・保育室を掃除させる意味を考えさせ、感謝の気持ちにつなげていく。 次に使う友達のお持ちについて話し合い、ていねいに整理していくことを促す。 健 込	大掃除

もうすぐ卒園ももうすぐ一年生	卒園行事の参加を通して、就学の期待をもつ。 豊 豊	オ	2, 3	・お別れ会や卒園式等の行事に参加する。	・年間を通して交流してきた人、保護者、全職員に、保育所生活で得た自分の得意なこと頑張ってきたこと等を発表したり、感謝の気持ちを伝えたりできるようにする。 B C	お別れ会 卒園式
気持ちを言葉で伝えよう	・卒園を前にして楽しかったことや就学への期待の気持ちをみんなの前で話し、伝え合う楽しさを味わう。 ㊦ ・話すことに慣れ、自分の思いを言葉で伝える。 豊 ・話し手の言葉を最後まで聞き、相手の思いを受け止める。 ㊦ ・感謝の気持ちを言葉で伝える。 豊	ウケ	2, 3	・年中児からのお別れ会への招待状を受け、会に参加したり感想を話し合ったりする。 ・卒園式で大きくなったらなりたいものを伝える。 ・不安や期待、感謝の思いを自分の言葉で伝える。	・不安や期待、感謝の思いを伝えられる場を設定する。	お別れ会 卒園式
気持ちを込めて歌おう	・感謝をこめて季節の歌や卒園式の歌を綺麗な声で歌ったり卒園の言葉をはっきりと言ったりする楽しさや心地よさを味わう。 ㊦ 豊	コ	2, 3	・卒園式練習や式、お別れ会に参加して、歌ったり言葉を言ったりする。	・歌詞を書いたり復唱したりしながら、意味を丁寧に伝え、心を込めて歌えるようにしていく。 B C ・保育所生活を振り返りながら、子ども達から言葉を引き出し、子ども達と一緒に短い文章にしていく。 B	歌の会 卒園式
自由にかこ	・様々な素材や技法を用い、経験したことや想像したことを自由に表現する楽しさを味わう。 ㊦ 豊	コ	2, 3	・工夫しながら卒園記念の絵の作成をしたり、作品袋や記念品を作成したりする。	・工夫しながら作成できるよう参考に本や作品を準備する。 ・画材を様々な準備しておく。	

☆保育内容の5領域 【健康…豊 人間関係…㊦ 環境…豊 言葉…豊 表現…豊】

☆幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 【健康な心と体…ア 自立心…イ 協同性…ウ 道徳性・規範意識の芽生え…エ 社会生活との関わり…オ 思考力の芽生え…カ

☆日野園の基礎を確むプログラム(育てたい4つの力) 【基本的な生活習慣…1 コミュニケーション力…2 自尊心…キ 数量等への関心・感覚…ク 言葉による伝え合い…ケ 豊かな感性と表現…コ】

☆保小連携3つの視点 【学校生活適応…A 学びの連続性…B 互恵性…C】

自然との関わり・生命尊重…キ 自尊感情…3 セルフコントロール力…4】

(2) 実践事例

発表会をしよう	
実施時期	2月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に考えたり工夫したりして取り組む楽しさを味わう。【人間関係・環境】 ・友達と互いの良さを認め合い自信をもって取り組む。【人間関係】 ・人前で自分を表現し、達成感を味わう。【表現】
主な10の姿	協同性 社会生活との関わり 思考力の芽生え 数量等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
育てたい力	コミュニケーション力 自尊感情 セルフコントロール力
保小連携の視点	互恵性
これまでの経験	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに年長児の発表を見て、自信をもって活動する姿に憧れをもっている。 ・たのしみ会で劇、ダンスを発表し、やり遂げる心地よさを感じている。 ・様々な素材の特性に気付き、イメージに合った物を使って衣装や道具などを作ることを楽しんでいる。 ・自分たちで相談し人形劇や会を進めていこうとしている。 ・友達同士で見せ合い、認め合ったり励まし合ったりすることで意欲が高まってきている。
環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張っているところ、よいところなどを友達同士で気付くことができるように、互いに見合えるような場所の構成をする。 ・友達と一緒に考えたり工夫したりして進めていけるよう、時間に余裕をもつ。
園児の姿 予想される園児の反応	活動の中で経験している内容
<ul style="list-style-type: none"> ・見に来てくれた人たちを迎える。 いらっしやいませ こちらどうぞ ・発表会を進める。 お客さんがいっぱいではずかしいな 一緒にがんばって進めよう ・発表したり、発表を見たりする。 がんばって発表するぞ 〇〇ちゃんすごい! 上手になってるね! 場所がせまいから、ちょっとずらそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を見てもらいたくて、友達や保育者に積極的に歓迎の言葉をかける。 ・見に来てくれた人たちとの言葉のやりとりや、場に応じた言葉使いをすることを楽しむ。 ・友達同士で考えを出したり協力し合ったりしながら会を進める。 ・友達同士で、互いの良さや頑張っているところを認め合い言葉をかける。
連携に向けた保育士の援助（3つの視点との関連）	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の友達や全職員に、保育所生活で得た自分の得意なこと頑張ってきたことなどを発表したり、感謝の気持ちを伝えたりできるよう援助する。B ・口の開け方や姿勢に気を付けながら友達や保育者の前で話す場を設け、援助する。A B ・友達の発表を見て、認め合ったり協力し合ったりして会を進めていけるよう援助する。C 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とやりとりしながら考えたり工夫したりして会を進めることを楽しんでいる。 ・自信をもって自分を表現し、友達と互いの良さや頑張りを認め合い達成感を味わっている。
幼児期からつながる小学校での学びや育ち	
<ul style="list-style-type: none"> ・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ・相手に応じて話す事柄を順序立て、ていねいな言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。 ・友達と仲良くし、助け合う。 	

6. スタートカリキュラム

(1) 単元等配当表

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
8:20~ 9:30 うきうき タイム		あいさつ、健康観察、1日の予定、朝の準備(靴箱、ロッカー、机)、学習に入る前の心の準備(チャイム、トイレ) イ1[A] ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学級で安心感をもって学習に向かえるようにする。			
		いちねんせいになったよ イ1[A](生1) ・はじめと終わりのあいさつ ・名前を言う ・静かに待つ ・体操服の着替え方	うたでなかよしになるろうこ2[C](音1/3) ・歌・手遊び歌 みんなのせかいケ1[B](国2/3) ・読み聞かせ	うたでなかよしになるろうこ2[C](音1/3) ・歌・手遊び歌 はきはきあいさつケ12[B](国2/3) ・あいさつ ・なぞなぞ ・読み聞かせ	うたでなかよしになるろうこ2[C](音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 ほんがたくさんケ2[B](国2/3) ・ことばあそび ・読み聞かせ
		身体測定 ア1[A][C](行事1)	せんせいあのねコ3[A][C](図1) ・すきなもののなあに ・すきなものを教えてあげる (絵を見せながら発表) ・てるてる坊主作り	うたでなかよしになるろうこ2[C](音1/3) ・歌・手遊び歌 みんなのせかいケ12[B](国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の上げ方、発表の仕方	なかよくなりたいたいな(よろしくね・いちねんせいになったよ)ケ2[A][C](国1/3 生2/3) ・名前を書いてみよう ・自己紹介の練習
9:35~ 12:30 2~4 校時 休憩を含 み弾力的 な扱いを する	入学式 (行事1) 6年生とあそぼう オ23[A][C](学2/3) いちねんせいになっ たよオ14[A](生5/6)	うたでなかよしになるろうこ2[C](音2/3) ・歌・手遊び歌 みんなのせかいケ1[B](国1/3) ・あいさつ ・いすの座り方 ・返事 ・教科書、筆箱の使い方	どっちがおおいかなク1[B](算1) ・算数セットの使い方 ・ゲーム	みんなであそぼう アウ14[B][C](体1) ・体育館の使い方 ・鬼ごっこ ・ころがしドッジボール	みんなであそぼう アウ14[B][C](体1) ・体育館の使い方 ・鬼ごっこ ・タイヤ跳び
		いちねんせいになったよオ14[A](生1/2) ・廊下の歩き方、整列の仕方 ・靴箱、傘かけの使い方の確認 ・登下校のルール たのしいきゅうしょくイウ1[A][C](学1/2) ・上級生の準備を見学 ・歯磨きの仕方・休憩時間の過ごし方の確認	しせいともちかたク3[B](書2/3) ・運筆練習 たのしいきゅうしょくイウ1[A][C](学1/3) ・給食の準備・食べ方・片付け(手伝いあり)	しせいともちかたク3[B](書2/3) ・鉛筆の持ち方 ・字をかく姿勢 ・運筆練習 たのしいきゅうしょくイウ1[A][C](学1/3) ・給食の準備・食べ方・片付け(手伝いあり)	いちねんせいになったよオ14[A](生2/3) たのしいきゅうしょくイウ1[A][C](学1/3) ・給食の準備・食べ方・片付け(手伝いあり)
13:30~ 14:45 掃除 5校時 帰りの 準備 終わりの 会		そうじのしかたをか んがえよう イウ4[A](学1/2) いちねんせいになっ たよケ3[A](生1/2) ・絵本の読み聞かせ 帰りの準備・終わりの 会	いちねんせいになっ たよオ14[A](生1) ・掃除の仕方を見学 ・トイレ、水道の使い方 ・ロッカーや机の中 の整頓等 帰りの準備・終わりの 会	帰りの準備・おわり の会 交通安全教室 エ4[A](行事1) 集団下校	そうじのしかたをか んがえよう イウ4[A](学1/2) ・教室掃除の仕方 いちねんせいになっ たよオ14[A](生1/2) 帰りの準備・終わりの 会
大切に したい こと	○楽しみながら小学校生活に慣れるような活動を行う。 ・保育所の朝の活動に関連づけて、うきうきタイムを設定する。 (歌や手遊び、ことば遊び、本の読み聞かせなど時間帯で取り組む。)				

時間	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
8:20~ 9:30 うきうき タイム	あいさつ、今月の歌、健康観察、1日の予定、朝の準備の仕方、学習に入る前の心の準備イ1[A] ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学級で安心感をもって学習に向かえるようにする。徐々に、朝の会を1年生が進行するようにしていく。				
	うたでなかよしになろうコ2[C] (音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかいケ1 2[B] (国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方	うたでなかよしになろうコ2[C] (音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 ほんがたくさんケ2[B] (国2/3) ・ことばあそび ・読み聞かせ	うたでなかよしになろうコ2[C] (音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかいケ1 2[B] (国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方	うたでなかよしになろうコ2[C] (音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 ほんがたくさんケ2[B] (国2/3) ・ことばあそび ・読み聞かせ	うたでなかよしになろうコ2[C] (音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかいケ1 2[B] (国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方
9:35~ 12:30 2~4 校時 休憩を含み弾力的な扱いをする	どっちがおおいかなく1[B] (算1) ・なかまづくり ・かず、ゲーム ・算数セットの使い方	ねんどであそぼうコ3[B] (図1)	かずとすうじク3[B] (算1)	ゆうぐであそぼうア1 4[A] [C] (体1) ・整列、行進等集団行動 ・鬼ごっこ ・遊具の使い方	かずとすうじク3[B] (算1)
	がっこうだいすきオ1 2[A] [C] (生1) ・2年生と一緒に学校探検	かずとすうじク3[B] (算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム	かたちやいろをたのしもうコ3[B] (図1)	かずとすうじク3[B] (算1)	たのしいがっこうエ1 2 3[A] (道1)
	がっこうだいすきオ1 2[A] [C] (生1) ・2年生に自己紹介 ・2年生と一緒に学校探検 帰りの準備・終わりの会	じをかこうク3[B] (国2/3) ・正しい姿勢 ・鉛筆の持ち方 ・運筆練習 たのしいきゆうしょくイウ1 [A] [C] (学1/3) ・自分たちで給食の準備をする。	じをかこうク3[B] (国2/3) ・正しい姿勢 ・鉛筆の持ち方 ・運筆練習 たのしいきゆうしょくイウ1 [A] [C] (学1/3) ・給食の準備 ・片付けの仕方、歯磨きの仕方	じをかこうク3[B] (国2/3) ・正しい姿勢 ・鉛筆の持ち方 ・運筆練習 たのしいきゆうしょくイウ1 [A] [C] (学1/3) ・給食の準備 ・片付けの仕方、歯磨きの仕方	じをかこうク3[B] (国2/3) ・正しい姿勢 ・鉛筆の持ち方 ・運筆練習 たのしいきゆうしょくイウ1 [A] [C] (学1/3) ・給食の準備 ・片付けの仕方、歯磨きの仕方
13:30~ 14:45 掃除 5校時 帰りの準備 終わりの会	うたでなかよしになろうコ2[C] (音1/3) (参観授業) あいうえおのうたケ3[B] (国2/3)	あいうえおのうたケ3[B] (国2/3) そうじのしかたをかかんがえようイウ4[A] (学1/3) ・教室掃除の仕方 帰りの準備・終わりの会	教室の掃除 そうじのしかたをかかんがえようイウ4[A] (学2/3) ・廊下等の掃除の仕方 がっこうだいすきオ1 [A] (生1/3) 帰りの準備・終わりの会	教室の掃除 がっこうだいすきオ2 [A] (生1) 帰りの準備・終わりの会	廊下・玄関の掃除 あいうえおのうたケ3[B] (国1) 帰りの準備・終わりの会
大切にしたいこと	○2週目は1単位時間の教科を15分ごとに内容を区切るなど工夫しながら教科学習に慣れるように学習を進めていく。				

☆ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【健康な心と体…ア 自立心…イ 協同性…ウ 道徳性・規範意識の芽生え…エ 社会生活との関わり…オ

思考力の芽生え…カ 自然との関わり・生命尊重…キ 数量等への関心・感覚…ク 言葉による伝え合い…ケ 豊かな感性と表現…コ】

☆ 日野町学びの基礎を育むプログラム《育てたい4つの力》【基本的な生活習慣…1 コミュニケーション力…2 自尊感情…3 セルフコントロール力…4】

☆ 保小連携3つの視点 【学校生活適応…[A] 学びの連続性…[B] 互恵性…[C]】

(2) 各教科等単元計画

生活科

単元名		
いちねんせいになったよ		
目 標	学校の施設の様子および、学校を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにする。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
「学校のこと知りたいな」 ○学校生活の中で、できることを続けたり、場面に応じた行動の仕方を知り、それらを実際に行ってみたりして、楽しく意欲的に学校生活を送れるようにする。	①机の中やロッカーなど、自分の使う場所の整頓の仕方や使い方を知る。 ②靴箱や傘かけ、トイレ、水道などの使い方を知る。 ③体育館に行くときや身体測定をするときなど、いろいろな並び方を知り、廊下の歩き方や整列の仕方をみんなで練習する。 ④身体測定の仕方や着替え方を知り、みんなで練習する。	学級活動 「たのしいきゆうしょく」
「みなさん、よろしくね」 ○友達や教師、上級生など、学校の様々な人との関わりを通して、楽しく安心して生活を送れるようにする。	①なかよし集会に向けて自己紹介の練習をする。 ②名刺交換遊びをしたり、校内の人達に名刺を渡して自己紹介をしたりする。(自分の好きな物、名前) ③6年生に修学旅行に向け、てるてる坊主をプレゼントする。	図工 「せんせいあのね」 国語 「しせいともちかた」「よろしくね」 特別活動 「なかよし集会」
「一緒に遊ぼう」 ○教師や友達と遊ぶことを通して、これからの学習に興味をもてるようにする。	①保育所で経験した遊びをする。 ②校庭遊びをする。(遊具遊び、鬼ごっこ、仲間集め遊び) ③室内遊びをする。(手遊び、指遊び、仲間集め遊びなど)	体育 「ゆうぐであそぼう」 音楽 「うたでなかよしになろう」
「学校のこと知りたいな」 ○1日の学校生活のおよその流れが分かるとともに、学校の施設や人、学習などに興味・関心をもち楽しく安心して意欲的に学校生活を送れるようにする。	①朝の準備や朝の会の仕方を知る。 ②あいさつと返事の仕方を知る。 ③学校探検をする。 ④チャイムの役割や学校生活の大まかな流れを知る。 ⑤帰りの準備や帰りの会の仕方を知る。	学級活動 「そうじのしかたをかんがえよう」
単元名		
がっこう だいすき		
目 標	学校の施設や通学路の様子および学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活できるとともに、安全な登下校ができるようにする。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
「学校のこと知りたいな」 ○教師や2年生に引率されて学校の校舎内外を見て歩き、施設や人に関心を持ち、学校生活に必要な場所や、安全に気を付ける場所などに気付くことができるようにする。	①校舎内外で行ったことのある場所について話し合い、意欲化を図る。 ②教師や2年生に引率されて、校舎内外を見学する。 ③各施設や場所の役割に気付く。 ④各施設や場所の出入りや使用時のルール、校内歩行のマナーについて確認する。 ⑤校内の様々な人と出会い、関わり方を知る。 ⑥気付いた・心に残った「こと」「もの」「ひと」場所について話し合ったり、絵に描いたりする。	学級活動 「たのしいきゆうしょく」

国 語 科

国 語 科		
単元名 みんなのせかい		
目 標	絵や言葉から気付いたことや想像したことなどを、みんなの前で話すことができる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○見付けたことや想像したことを言葉で伝えることができる。 ○絵から話の展開や会話を想像することができる。	①題名や絵から話の内容に興味をもち、絵から見付けたことや気付いたことを話す。 ・教科書の使い方を知る。 ・話の聞き方・発表の仕方を知る。 ・返事の仕方や挙手の仕方を知る。 ②提示された各場面の絵を見ながら、見付けたことや想像したことを話したり友達の話の話を聞いたりする。 ③絵を見ながら、好きな場面を選んだり4つの場面をつないだりしてお話をする。	
単元名 はきはきあいさつ		
目 標	場面や状況に合わせた言葉づかいで、はっきりとあいさつすることができる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○場面に応じたあいさつの言葉を考えて言うことができる。 ○相手に伝わる声ではっきりとあいさつすることができる。	①あいさつについて関心をもち、生活の中からあいさつを振り返ったり、挿絵からあいさつの言葉を考えたりすることができる。 ②1日の生活の中から場面を設定し、実際に動作したり、声に出したりして、あいさつの練習をすることができる。	
単元名 よろしくね		
目 標	丁寧な言葉づかいで自己紹介し合うことができる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○丁寧な言葉づかいで自己紹介することができる。 ○自分の名前をはっきりと伝えようとするすることができる。 ○名前を丁寧に書こうとすることができる。	①名前カードを使って自己紹介をすることを知り、その仕方を理解する。教師によるモデルを見て、意欲を高め、名前カードを作る ②自己紹介の練習をして、友達と名前カード交換会をする。感想を交流する。 ③学級以外の場での自己紹介の場面に向けて練習する。	図工 「せんせいあ のね」 生活 「いちねんせ いになった よ」
単元名 しせいともちかた（書写）		
目 標	正しい姿勢・鉛筆の持ち方でいろいろな線をかき、運筆になれる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○正しい姿勢・鉛筆の持ち方を学習し、丁寧に書く態度を身に付ける。 ○書くことに興味をもち、いろいろな線をかき運筆になれる。 ○名前を丁寧に書こうとする。	①鉛筆の持ち方・字を書く姿勢を知る。 ・筆箱や鉛筆、消しゴムなどの学用品の扱い方を知る。 ②運筆練習をする。 ③掲示用の自分の名前を書く。	図工 「みなさんよ ろしくね」 生活 「いちねんせ いになった よ」
単元名 じをかこう		
目 標	言葉や文字に関心をもち、平仮名を書くことができる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○書くことに興味をもち、運筆になれる。 ○ひらがなに興味をもち、丁寧に書くことができる。	①文字を書く学習をすることを知り、興味をもつ。教科書の写真を見て、姿勢と鉛筆の持ち方をまねて、運筆の練習をする。 ②字形や筆順、始筆や終筆に注意しながら、易しい字形の平仮名を書く。	

単元名		ほんがたぐさん	
目 標	学級文庫や学校図書館の役割や使い方を知り、読み聞かせを楽しんだり、読みたい本を借りて読んだりすることができる。		
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連	
「本がたぐさん」 ○本に興味をもって、好きな本を選び読書を楽しもうとすることができる。 ○好きな本を選んで読み聞かせを聞いたり自分で読んだりすることができる。	①読み聞かせをたぐさん聞くことを通して、読書を楽しむ学習をすることを知り、本に興味をもつ。 ②学級文庫や学校図書館について知り、たぐさんの本の中から読みたい本を選んで読む。		
「図書館は楽しいね」 ○図書館の役割や使い方の概略を知り、本に親しむ気持ちをもつことができる。	①図書館の見学をする。 ②図書館の役割と使い方についてのオリエンテーションを受ける。 ③読み聞かせを聞いて、本に親しむ。 ④本の貸し借りの手順の指導を受ける。		
単元名		あいうえおのうた	
目 標	語のまとまりや、音と文字とのつながりを意識して読んだり書いたりすることができる。		
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連	
○音読や言葉集めの活動に意欲的に取り組める。 ○語のまとまりを意識して書くことができる。 ○絵と言葉をつないで意味を捉え、語のまとまりに気を付けて音読することができる。	①正しく発音したり文字を書いたりする学習をすることを知り、「あいうえおのうた」を明瞭な発音で音読するという学習課題を捉える。 ②「あ」「い」「う」「え」「お」やそれらを含む語を、口形や音節に注意して発音する。 ③平仮名を書く練習をしたり、「あ」「い」「う」「え」「お」から始まる言葉を集めたりしながら、語のまとまりを意識する。 ④「あいうえおのうた」を音読し、友達と聞き合う。		

算 数 科

単元名		どっちがおおいかな	
目 標	ものの集まりに着目し、1対1対応などにより数の多少が判断できる。		
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連	
○これから学ぶ算数に対して、興味、関心と大きな期待をもち、積極的に学ぶ意欲と態度をもつ。	①教科書を見て気付いたことを話す。 ②2つのものの集まりの要素を1対1に対応づけ、数の多少を調べる。 ③2つのものの集まりを数図ブロックに置き換え、数図ブロック同士を1対1に対応づけて、数の多少を調べる。(算数セットの使い方・算数セットを使ったゲーム)		
単元名		かずとすうじ	
目 標	○具対物と半具対物(数図ブロック)とを対応させながら10までの数について、集合数(計量数)としての理解ができる。 ○5までの数について、よみ方やかき方を理解し、大小判断や合成・分解ができる。 ○10までの数のよみ方やかき方を理解し、大小判断ができる。		

活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
<p>○身のまわりの具体的な場面から、物の個数を進んで数で表そうとする。</p> <p>○ものと数詞を対応させて数えることができる。</p> <p>○10までの数について読んだり書いたり大小を比べることができる。</p> <p>○10までの数の意味や表し方を概ね理解することができる。</p>	<p>①5までの数の概念と命数法</p> <p>②5までの数字とかき方</p> <p>③5までの数の合成・分解</p> <p>④10までの数の概念と命数法</p> <p>⑤10までの数字とかき方</p>	

音楽科

音楽科		
単元名	うたでなかよしになろう	
目 標	友達と一緒に歌ったり体を動かしたりする楽しさを感じ取りながら、音楽への興味・関心をもつ。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
<p>○既習の歌を友達や2年生と一緒に仲良く歌ったり楽しんだりすることによって友達をつくったり音楽に親しんだりすることができる。</p> <p>○友達と一緒に仲良く歌うことができる。</p> <p>○みんなで遊びながら楽しく歌うことができる。</p>	<p>①保育所で歌っていた歌を学級のみinnで一緒に歌う。</p> <p>②遊び歌（手遊び歌・知っている童歌等）をinnで遊びながら楽しく歌う。</p> <p>③「うたでさんぽ」をinnで一緒に歌う。</p> <p>④「ぞうさんのさんぽ」「てとてであいさつ」を友達と一緒に仲良く歌う。</p> <p>⑤「ひらいたひらいた」をinnで遊びながら楽しく歌う。</p>	<p>生活</p> <p>「いちねんせいになったよ」</p>

図画工作科

図画工作科		
単元名	せんせい あのね	
目 標	オリエンテーションをすることにより、一年間の図画工作の活動の中で感じたことや心に浮かんだことを、躊躇せず、いろいろな表し方でどんどん表していこうとする意欲を育てる。	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
<p>○友達や上級生との関わりを通して、楽しく安心して生活を送れるようにする。</p>	<p>①自分の伝えたいもの、表したいものを好きな色を考えたり、おもしろい形を考えたりして表現する。</p> <p>②教師や友達に自分の作品について伝えたいことを発表したり、友達の作品を鑑賞したりする。</p> <p>③修学旅行に出かける6年生へ「てるてるぼうず」をおくするために、材料や形、色を工夫して作る。</p>	<p>生活科</p> <p>「いちねんせいになったよ」</p>
単元名	ねんどで あそぼう	
目 標	オリエンテーションをすることにより、一年間の図画工作の活動の中で感じたことや心に浮かんだことを、躊躇せず、いろいろな表し方でどんどん表していこうとする意欲を育てる。	

特別の教科 道徳

特別の教科 道徳		
単元名	たのしい がっこう	
目 標	学校生活の様々な場面を思い描き、楽しさに気持ちを向ける。 ルールを守ったり、進んで活動したりすることで、より楽しい学校生活を送ることができることを自覚する。 C－（14）よりよい学校生活、集団生活の充実	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○入学してからの小学校生活を振り返り、改めてきまりや気持ちよく過ごすためのマナーを確認し、より一層楽しく学校生活を送ろうとする。 ○身近で、日ごろお世話になっている人たちに気付き、それらの人たちに感謝する気持ちを具体的な形や行動に表そうとする。	①資料（場面絵）を見ながら話し合う。 ②入学してから今までに体験した学校での活動について話し合う。 ③きまりよく、楽しく学校生活を送るために、学級や学校で取り組みたいことを発表し、思い出を膨らませる。 ・お世話になっている6年生が修学旅行に出かけ前に、自分たちが作ったてるてるぼうずを渡しに行く。	お世話になっている人に感謝して B－（7）

学級活動

学級活動		
単元名	6年生とあそぼう	
目 標	登校班や縦割り活動で交流することの多い6年生と遊びを通して関わり合うことで、明日からの登校や小学校生活に安心感をもたせる。 （2）－イ	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○保護者が懇談をしている間を利用し、6年生と1年生、お互いの交流を深める。	①自己紹介をし合う。 ②6年生と関わり、遊ぶ。 ③登校班ごとに集まり、班長から集合場所や集合時刻、登下校のきまりなどを教えてもらう。	
学級活動		
単元名	そうじの しかたを かんがえよう	
目 標	小学校生活に慣れるために、掃除の仕方を考えたり、相談をしたりして、自分たちで学校をきれいにしようとする意欲を高める。（3）－イ	
活動のねらい	主な学習活動	合科・関連
○小学校の掃除の仕方を見学し、仕方を考えるようにする。 ○掃除の仕方を考えて自分たちで掃除ができるようになる。	①2年生の掃除の様子を見学し、どのような手順で掃除をやっているのかを知る。 ②きれいにするために注意するところはどこかを考えながら見学する。 ③掃除の手順を確認し、雑巾がけをする。 ④きれいになった掃除場所を見て、感想を発表し合う。 ⑤掃除場所を、効率よく掃除ができるよう工夫する。 ⑥担当に分かれて掃除する良さに気付く。 ・分担しあって、効率よく掃除をする。	生活 「いちねんせいになったよ」

単元名		たのしい きゅうしょく	
目 標		給食の正しい配膳の仕方や食事のマナーを学ぶことで小学校生活に慣れようとする意欲を高める。(3) -イ	
活動のねらい		主な学習活動	合科・関連
<p>○小学校での給食の準備・片付けの仕方を知る。</p> <p>○6年生と給食を準備し、準備の手順・片付けを覚える。</p> <p>○自分たちで準備、片付けができるようになる。</p>		<p>①6年生の準備の様子を見学し、保育所と違うところに気付く。</p> <p>②準備の仕方を知る。</p> <p>③6年生と一緒に準備をして、当番や配膳の仕方に慣れる。</p> <p>④6年生に見守られながら、一年生だけで準備をして、当番や配膳の仕方に慣れる。</p> <p>⑤自分たちだけで給食当番や配膳を行い、食後の後片付けまで行う。</p> <p>⑥自分たちだけで給食当番や配膳を行い、食後の後片付けまで決められた手順でていねいに行う。</p>	<p>生活</p> <p>「いちねんせいになったよ」「がっこうだいすき」</p>
<p>○歯磨きの大切さ、歯みがきの正しい方法を確認する。</p>		<p>①歯みがきの大切さを改めて確認し、歯みがきの方法を確認する。</p> <p>②保育所で行っていたように砂時計を利用して、自分でできまりよく歯みがきを試みる。(3分間)</p> <p>③もぐもぐタイムや歯磨きのときもだまって取り組むことを知る。</p>	

(3) 実践事例

いちねんせいになったよ「がっこうのことしりたいな」(生活)

本時のめあて (1/4)	・学校や教室での自分の持ち物の置き場所や整理の仕方、みんなが使う場所の使い方を知り、きまりやマナーを守って気持ちよく使おうとする。	
関連する 主な10の姿	社会生活との関わり	
育てたい力	基本的な生活習慣 セルフコントロール力	
保小連携の視点	学校生活適応…生活習慣・運動・健康・体力、活動の広がりへ	
評価規準	・靴箱・傘かけ・机の中やロッカーなどの自分の場所や整理の仕方が分かり、気持ちよく使うためにきまりやマナーがあることに気付いている。 【身近な環境や自分への気付き】	
準備物	机の引き出し、ロッカーの整理の仕方、トイレの使い方を描いた絵や写真	
保育所での経験 ▲予想される困り感	接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物は自分の場所に片付ける。 みんなが困らないように使ったり片付けたりする。 おりがみ、おもちゃ、トイレ、手洗い場の使い方を知っている。 ▲洋式トイレで、ふたを閉めず、また、流さずに使っていた。	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真を使って整理の仕方を提示する。 トイレの使い方をていねいに指導し、休み時間ごとに声かけをする。 養護教諭と連携し、保健室の利用について知らせることで、安心して学校生活を送れるようにする。 	
主な学習活動	予想される児童の反応	◎教師の支援 ★評価規準(評価方法)
つかいかたをしり、きもちよく つかおう 1 机の中やロッカー、靴箱・傘かけなどの自分の使う場所の使い方や整理の仕方を知る。	名札や番号のところにおくんだね。 絵を見ると分かるよ。 かばんの向きやふたの閉め忘れに気を付けよう。	◎机の中の右側は、時間割の順に教科書やノートを入れるよう指示する。 ◎左側は、筆箱や常備の道具類を入れるようにさせる。 ◎歯ブラシ、手ふきタオル、白衣、なわとび、本読みカードの位置なども確認する。 ◎絵や写真を提示して、しばらく掲示しておく。 ◎靴箱には、上に上靴、下に下足を置くことを知らせる。 ★靴箱・傘かけ・机の中やロッカーなどの自分の場所や整理の仕方が分かり、気持ちよく使うためにきまりやマナーがあることに気付いている。(行動観察)
2 トイレや水飲み場などの使い方を知る。	流し方はどうするのかな。 手洗いや水飲みはここですか。 授業中だから静かに歩こう。	◎和式トイレの使い方や鍵の締め方を一緒に個室に入って確認する。 ◎洋式トイレもあることを知らせる。 ◎汚したり困ったりしたときには、すぐに相談するとよいことを知らせる。 ◎校舎内の歩き方、廊下の通り方も確認する。 ★トイレの使い方、廊下の通り方など学校のきまりが分かり、気持ちよく使おうとしている。(行動観察)



たのしいきゅうしょく（学級活動）

本時のめあて (1/3)	・6年生と一緒に給食の準備や配膳をして、小学校の当番や配膳の仕方に慣れる。 【(3)ーイ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解】
関連する 主な10の姿	自立心 協同性
育てたい力	基本的な生活習慣
保小連携の視点	学校生活適応…生活習慣・運動・健康・体力、活動の広がりへ
評価規準	・学校のきまりや給食時間のマナーが分かり、給食準備の手順・片付けを覚える。
準備物	机ふき、ミニバケツ、牛乳パック入れ袋、砂時計
保育所での経験 ▲予想される困り感	接続を踏まえた指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の給食（バットの上に皿、汁椀）を自分で運ぶ。 ・3人ごとにおかず、しるを配膳する当番を行っていた。 ▲一人分の量が増え、配り分ける量が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真、シールを使って、当番役割分担表や食缶の置き場所を提示する。 ・6年生の準備の手順を見たり、一緒に当番や配膳をしたりして覚え、自分たちだけでできるようにさせる。
主な学習活動 予想される児童の反応	◎教師の支援 ★評価規準（評価方法）
<p>とうぼんのしかたをしり、おぼえよう</p> <p>1 6年生の準備の仕方を見学し、保育所と違うところに気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 食缶を置くところはシールを見ると分かる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 保育所とまわり方が逆だね。 </div> <p>2 準備、配膳、片付けの仕方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 運ぶとき、バットをしっかり持って皿を割ったり、こぼしたりしないように気を付けよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 食べ終わったときの片付けはこうするのか。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 歯磨きはどうするのか。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 給食時間中だから廊下は静かに歩こう。読書して待とう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◎歯ブラシ、手ふきタオル、白衣の位置を確認させる。 ◎白衣の帽子とマスクを身に付け、手洗いをていねいにするよう促す。 ◎6年生が白衣、マスクなど身支度を整え、手洗いをしっかりして給食当番の手伝いに来てくれたことを紹介する。 ◎食缶を配膳台に配缶するところを一緒に見て、確認し、シールで提示する。 ◎バットを持って、一人一人おかず、ごはん、汁の順にのせ、配膳する。 ◎最後に空いた食缶を片付け、1つの配膳台に食器入れ、バット入れ、牛乳パック入れ袋、ミニバケツを置くことを知らせる。 ◎お世話になった6年生にお礼を言うよう促す。 ★学校のきまりや給食時間のマナーが分かり、給食準備の手順・片付けを覚える。（行動観察） ◎食器を片付けた後、保育所と同じように砂時計を持って自分の机で歯磨きをすることを確認する。 ◎早く終わっても給食時間が終わるまで、静かに待つことを知らせる。

Ⅲ－２ 園児、児童の交流活動

1. 年長児と小学校1年生の交流活動

実施時期	1学期
ねらい	<p>年長児：1年生の学習を見聞きしたり、1年生と交流したりすることにより、小学校生活や学習の様子を知り、小学校の雰囲気を楽しみをもととする。</p> <p>1年生：学習の様子を年長児に見せたり交流をしたりすることにより、小学生としての自覚を深める。</p>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・ゲーム
評価	<p>年長児：小学校生活や学習の様子を知り、交流を楽しむとともに1年生への憧れや小学校生活への期待感を高めている。</p> <p>1年生：相手意識をもって発表や交流をしたり、司会など自分の役割を果たしたりする中で、自分自身の成長に気付いている。</p>
保育課程への位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・就学へ向けて、生活リズムや生活の仕方、規範意識について意識し、生活自立に向けての意欲を高める。
教育課程への位置づけ	<p>学級活動「小学校へようこそ！いっしょにあそぼうしゅうかいをしよう」</p> <p>(1)ーウ</p> <p>生活科「がっこうだいすき」</p>
接続カリキュラムとの関連(保小連携の視点)	<p>年長児：1年生へのお礼の手紙など(互恵性)</p> <p>1年生：交流会に向けての準備・運営など(学びの連続性・互恵性)</p>
職員の連携・交流との関連	<p>[事前打ち合わせ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、保育所がそれぞれの交流のねらいに即して、普段の生活の様子を情報交換し合い、お互いのつながりが深まるように事前の打ち合わせを行う。 <p>[事後協議]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の成果と課題について協議し、保育内容、教育内容の改善を図る。
実施場所	各小学校
担当	年長児担任、◎1年担任 ※◎は主任

2. 年長児と小学校5年生の交流活動

実施時期	2学期
ねらい	<p>年長児：5年生と交流したりする中で、小学校生活の雰囲気を知り、5年生への憧れや就学への期待感を高める。</p> <p>5年生：年長児と交流することにより、相手意識をもって異年齢の友達と接し親しくなる。年少者とふれあうよさ・大切さに気付き、学校生活・家庭生活にいかす。</p>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の発表 ・ゲーム
評価	<p>年長児：ペアになった5年生との会話や活動を楽しみ、小学生への親しみや憧れを感じ、就学への期待感を高めている。</p> <p>5年生：年長児の思いを聞きながら相手意識をもって関わり、安全に、お互い心地よい活動になるように交流している。</p>
保育課程への位置づけ	小学校生活への希望をもち、卒園、入学に向けての意欲を高める。
教育課程への位置づけ	学級活動「保育園児と交流しよう」（1）ーウ
接続カリキュラムとの関連（保小連携の視点）	年長児：活動への参加（学びの連続性・互惠性）
職員の連携・交流との関連	<p>[小学校教職員の保育参加]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の実態を把握する。 <p>[事前打ち合わせ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、保育所がそれぞれの交流のねらいに即して、普段の生活の様子を情報交換し合い、お互いのつながりが深まるように事前の打ち合わせを行う。 <p>[事後協議]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の成果と課題について協議し、保育内容、教育内容の改善を図る。
実施場所	保育所
担当	◎年長児担任、5年担任 ※◎は主任

3. 小学校体験入学

実施時期	2月
ねらい	<p>年長児：小学校生活の授業、給食などを体験することを通して、小学校生活の雰囲気を知り、小学校入学への期待感を高める。</p> <p>小学生：年長児に学校を案内したり、学習活動などを一緒に行ったりする活動を通して、自分の成長を感じるとともに進級に向けての自覚を高める。</p>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会 ・ゲーム ・給食
評価	<p>年長児：1年生や5年生との会話や活動を楽しみ、小学生への親しみや憧れを感じ、就学への見通しをもち、期待感を高めている。</p> <p>1年生：相手意識をもって関わり、安全に、お互い心地よい活動になるように意識するとともに、進級への自覚を高めている。</p> <p>5年生：年長児の思いを聞きながら相手意識をもって関わり、安全に、お互い心地よい活動になるように意識し、最高学年になる自覚を高めている。</p>
保育課程への位置づけ	小学校生活への期待感を高める。
教育課程への位置づけ	学級活動「もうすぐ6年生」(1)ーウ
接続カリキュラムとの関連(保小連携の視点)	年長児：活動への参加(学びの連続性・互惠性)
職員の連携・交流との関連	<p>[事前打ち合わせ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、保育所がそれぞれの交流のねらいに即して、普段の生活の様子を情報交換し合い、お互いのつながりが深まるように事前の打ち合わせを行う。 <p>[事後協議]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学の成果と課題について協議し、卒園に向けての指導内容の改善、入学後の受入体制の整備を図る。
実施場所	各小学校
担当	教頭、◎1年担任 ※◎は主任

4. 交流活動実践事例

保育所年長児と小学1年生との交流会

《よろしくね、なかよくなるろう》～小学校へようこそ！いっしょにあそぼう～

★環境の構成：事前に交流会について、年長児や児童と話し合ったり、保小の打ち合わせ会をもち交流活動について相談したりする。

1 事前指導

年長児	1年生
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に出かけ、自己紹介や1年生の授業参観、交流を行うことを知らせ、期待をもたせる。 ・一緒に歌う歌を練習しておく。 ・交流で気を付けることやあいさつ、感想を発表することについて話し合い、心の準備をしておく。 ・お互いの現在の顔写真を送る。1年生の顔写真を見て名前と顔を確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児への相手意識をもって、歓迎会の内容を話し合う。 ・プログラムや司会進行・ゲーム係などの役割を決めて、準備や練習をする。 ・交流で気を付けることや小学校にむかえる準備や配慮について話し合ったり実際に準備したりする。 <p>※靴箱・荷物置き場・いす・体育館借用予約など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの現在の顔写真を送る。年長児の顔写真を見て名前と顔を確認しておく。

2 本時目標と評価

<p>うめ組 年長5歳児 観点（興味・関心） 視点（意欲～おもしろそうだな～）</p> <p>【遊びの経過】 春から朝の活動でリズム運動や季節の歌に取り組むとともに、うめ組の活動では、縄跳び・マラソン、ころがしドッジやいすとりゲーム、砂山の造形等友達と関わって遊ぶ喜びを味わっている。本や紙芝居の読み聞かせや詩の紹介を通して言葉への関心も広がってきている。</p> <p>【ねらい】 ・1年生の学習の様子を見たり1年生と交流したりする中で、小学校生活の雰囲気を知り、1年生への憧れや就学への期待感を高める。</p> <p>【評価】 ・小学校生活や学習の様子を知り、1年生との交流を楽しみ、1年生への憧れや就学への期待感を高めている。</p>	<p>小学校 1年生 生活科 「がっこうだいすき」</p> <p>【活動の経過】 今できるようになったことや小学校について知ったことを年長児や保育者に伝えたいと思っている。生活科の学習で2年生に歓迎してもらったことを想起し、自分たちが学習していることを発表したり楽しい交流をしたりしようという意欲をもっている。</p> <p>【ねらい】 ・学習の様子を年長児に見せたり交流をしたりすることにより、小学生としての自覚を深める。 ・年長児に分かりやすく司会進行したり、はきはきと音読したり校歌を大きな声で歌ったりする。</p> <p>【評価】 ・年長児の思いを聞きながら、相手意識をもって発表や交流をしたり、司会などの役割を果たしたりしている。（生活への関心・意欲・態度）</p>
--	--

年長児と小学1年生との交流の概要

・1年生教室に年長児を迎え、1年生が話し合いで決めた内容（校歌や音読の発表、学習の様子のお知らせ、ゲームなど。）を一緒にして交流を楽しむ。

3 本時の展開

活動内容	○年長児への援助 ■配慮 ☆評価	○1年生への指導上の留意点 ※支援 ☆評価
<p>1 1年生が児童玄関で年長児を出迎える。</p> <p>2 年長児と1年生との交流活動をする。</p> <p>①はじめのあいさつをする。 1年生：司会係</p> <p>②はじめの言葉を言う。 1年生：ーさん 年長児：ーさん・ーさん</p> <p>③自己紹介をする。 自分の名前と好きな食べ物や遊びについて話す。</p> <p>④校歌・歌「かたつむり」を歌う。</p> <p>⑤音読発表をする。 1年生全員</p> <p>⑥遊びの説明をする。 1年生：遊び係</p> <p>⑦いすとりゲームをする。</p> <p>⑧体育館へ移動し、手つなぎ鬼・ころがしドッジをする。</p> <p>⑨交流活動をふり返る。</p> <p>⑩おわりの言葉を言う。 年長児：ーさん・ーさん 1年生：ーさん</p> <p>3 記念写真を撮る。</p> <p>4 1年生が年長児を見送る。</p>	<p>○1年生について1年教室まで歩いていけるよう、声かけをする。</p> <p>○入室後、身支度をさせる。 ■配慮の必要な園児について適時支援する。 ■当日名札をつける。</p> <p>○活動の様子を見守りながら、1年生や保育士、教師の話を最後まで見て聞くように声かけをする。</p> <p>○いつも心がけている3の声で自己紹介ができるよう声かけをする。</p> <p>○保育所でも歌っている「かたつむり」の歌を自信をもって大きな声で一緒に楽しめるよう声をかけ笑顔で一緒に歌う。 ■保育所で行っている歌や遊びを取り入れることで緊張をほぐす。</p> <p>☆1年生の言動を見たり聞いたりして、興味をもって活動しようとしている。(行動・発言)</p> <p>○一言でも感想が言えるように声かけをする。</p> <p>○いつも心がけている3の声であいさつができるよう声かけをする。</p>	<p>○年長児の下足置き場(児童玄関にうめ組コーナー)、荷物置き場(給食台)を事前に準備させておく。</p> <p>○役割分担をして進行させる。 ○児童主体ですすめ、めあての確認、活動内容、約束を児童の言葉で話させる。</p> <p>※年長児に分かりやすく伝えるよう声をかける。 ○安全に、お互い心地よい交流活動ができるよう声をかけたり見守ったりする。 ☆1年生であることを自覚し、年長児のことを意識して発言・発表したり活動したりしている。(発言・行動・発表) ○積極的に感想を言うように伝えておく。</p> <p>○撮影場所に、年長児を誘導させる。 ○年長児一人一人に声をかけるようにさせる。</p>

4 事後指導

年長児	1年生
<p>・楽しかったこと、経験したこと、友達のよかったことをみんなの前で話す。</p>	<p>・楽しかったこと、気付いたこと、めあてが達成できたか、年長児と関わりがもてたか振り返り、絵や文で手紙やワークシートに書く。</p>

保育所年長児と小学5年生との交流会

《よろしくね、なかよくなるろう》～いっしょにあそぼう～

★環境の構成：事前に交流会について、年長児や児童と話し合ったり、保小の打ち合わせ会をもち交流活動について相談したりする。

1 事前指導

年長児	5年生
<ul style="list-style-type: none">・自己紹介やあいさつ、5年生と交流を行うことを知らせ、期待をもたせる。・初めのあいさつの言葉、終わりの言葉を練習しておく。・交流で気を付けることや感想を発表することについて話し合い、心の準備をしておく。・お互いの現在の顔写真を送る。5年生の顔写真を見て名前と顔を確認しておく。	<ul style="list-style-type: none">・年長児への相手意識をもって、ゲームなどの交流内容を話し合う。・ペアの年長児や役割を決めて、準備や練習をする。・交流で気を付けることや保育所訪問時の配慮について話し合ったり実際に準備したりする。 ※訪問時の意識、態度を確認しておく。

2 本時目標と評価

<p>うめ組 年長5歳児 観点（人とのかかわり） 視点（協同性～いっしょにやろうよ～）</p> <p>【遊びの経過】 春から朝の活動でリズム運動や季節の歌に取り組むとともに、うめ組の活動では、縄跳び・マラソン、ころがしドッジや花いちもんめ、砂山の造形等友達と関わって遊ぶ喜びを味わっている。</p> <p>【ねらい】 ・5年生と交流したりする中で、小学校生活の雰囲気を知り、5年生への憧れや就学への期待感を高める。</p> <p>【評価】 ・小学校生活や学習の様子を知り、ペアの5年生と会話をしながら交流を楽しみ、5年生への憧れや就学への期待感を高めている。</p>	<p>小学校 5年生 学級活動 「保育園児と交流しよう」（1）－ウ</p> <p>【活動の経過】 総合的な学習の時間の活動等で、他学年に説明したり見通しをもって段取りをしたり地域の人と交流したりしている。また、入学してきた1年生を誘って休憩に遊んでいる。</p> <p>【ねらい】 ・年長児と交流する計画を立てるとともに交流することにより、相手意識をもって異年齢の友達と親しくなる。年少者とふれあうよさ・大切さに気付き、学校生活・家庭生活にいかす。</p> <p>【評価】 ・年長児の思いを聞きながら、相手意識をもって関わり、交流したり発表したりしている。 〈集団の一員としての思考・判断・実践〉</p>
---	--

年長児と小学5年生との交流の概要

・5年生が保育所を訪問し、自己紹介の後、自分たちが考えたゲームなどを一緒に行い、5年生が主体となって年長児と交流を楽しむ。

3 本時の展開

活動内容	○年長児への援助 ■配慮 ☆評価	○5年生への指導上の留意点 ※支援 ☆評価
1 年長児が5年生を保育所に迎え教室へ案内する。	○5年生を教室まで案内して行けるよう、声をかける。 ■配慮の必要な年長児について適時支援する。 ■当日名札をつける。	○分担して、自分の担当の持ち物を持っていかせる。
2 年長児と5年生との交流活動をする。 ①はじめのあいさつをする。 ②はじめの言葉を言う。 5年生 年長児 ③自己紹介をする。 自分の名前と好きなことについて話す。 ④交流活動の説明をする。 5年生 ⑤5年と年長児のペアグループで大縄跳び、しっぽ取りなどのゲームを行う。 ⑥交流活動をふり返る。 ⑦おわりの言葉を言う。 5年生 年長児 3 年長児が5年生を見送る。	○活動の様子を見守りながら、5年生や保育士、教師の話最後まで見て聞くように声かけをする。 ○いつも心がけている3の声であいさつや自己紹介ができるよう声かけをする。 ○分からないことは声に出して質問し、5年生に確かめるよう声をかける。 ☆5年生の操作や言動を見たり聞いたりして、会話をしながら興味をもって楽しく交流している。(行動・発言) ○一言でも感想が言えるように声かけをする。 ○いつも心がけている3の声であいさつができるよう声かけをする。 ○最後までしっかりと見送るよう声をかける。	○児童の主体的な活動となるよう支援する。 ○遊びの説明をする係を決め進めさせる。 ※年長児に分かりやすく伝えるよう声をかける。 ○安全に、お互い心地よい交流活動ができるよう声をかけたり見守ったりする。 ○年長児・5年生がそれぞれ具体的に関わり活動できるように、交流チームの人数や異年齢ペアを工夫させる。 ☆年長児の思いを聞きながら、相手意識をもって発表や交流をしたり、司会などの役割を果たしたりしている。(発言・行動・発表) ○積極的に感想を言うように伝えておく。 ○年長児の感想を聞き、自分の反省に活かす。 ○年長児一人一人に声をかけてからバスに乗るようにさせる。

4 事後指導

年長児	5年生
・楽しかったこと、経験したこと、友達のよかったことをみんなの前で話す。	・めあてが達成できたか、意識して考慮したり工夫したりして年長児と関わりがもてたかふり返り、映像レターなどで年長児へのメッセージを贈る。

Ⅲ－３ 職員の連携・交流

1. 保小連絡会

実施時期	1学期
テーマ	入学後の児童の様子と、効果的な保小交流活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後のスタートカリキュラムの内容や学級、児童の様子について情報交換し、今後の小学校教育の充実を図る。 ・入学後の課題を明らかにし、その解決の方策を探る。 ・園児、児童の実態に応じて、年間を通した保小連携・交流計画を立てる。
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムをもとにしなが学級、児童の様子について情報提供し、スタートカリキュラムの成果や改善点、今後の指導のあり方について協議する。 ・入学後に見られる課題について、保育所ときの指導内容等から、その解決方法を探る。 ・保育所、小学校においては情報交換したことを今後の園児、児童の指導にいかす。
参加者	保育所：所長、担任 学校：教頭、担任、特別支援教育主任 教育委員会事務局 保小連携担当
準備物	保小連携推進シート1
実施場所	各小学校
担当	保小中一貫教育推進委員会 保小・小小連携推進部会

実施時期	3学期
テーマ	保育所での学びを小学校での学びにつなぐために
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児の学級で取り組んできたことについて、保育課程やアプローチカリキュラムをもとに情報提供し、スタートカリキュラムやその後の小学校教育につなぐ。 ・次年度入学する園児の実態や指導上の留意点等について、保育所から小学校に伝え、相互理解を図る。 ・小学校においては情報交換したことを入学後の児童の指導に生かし、保育所では今後の園児の指導にいかす。 ・保小連携・交流事業について成果と課題を明らかにし、次年度の取組につなげる。
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児の学級で大切にしてきたこと、重点的に指導してきたことや集団としての育ち等、学級としての指導の経過、成果及び課題等について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らしながら情報提供する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の園児について、小学校ではどのような指導を行っていけばよいかについて、保育所での具体的な指導事例をもとに協議する。 ・園児の実態を把握するために、事前に保育参観を行う。 ・情報交換、協議した内容については、保育所、小学校において全職員で共有する。
参加者	保育所：所長、担任 学校：教頭、担任、特別支援教育主任 教育委員会事務局 保小連携担当
準備物	保小連携推進シート2、保育所児童保育要録、個別の指導計画等
実施場所	保育所
担当	保小中一貫教育推進委員会 保小・小小連携推進部会

2. 研修会、交流等

テーマ	保育所と小学校、それぞれの取組を知ろう
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・保小の職員が、互いの取組を知り、幼児期の教育から小学校教育への流れを意識することで、子どもの育ちや学びの連続性が生まれる。 ・園児の情報が引き継がれることで、保育所から学校への支援がつながり、園児・児童、保護者に安心感が生まれる。
ねらい	保育所で行われている幼児期の教育や、小学校で行われている義務教育について、その内容等を具体的に知ることで、それぞれの保育所、小学校でやるべきことを再確認するとともに、保小連携で必要なことを共有する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加 ・合同研修会 ・保育参観、授業参観  <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、小学校で行われる行事への参加 ・保育所に小学校コーナー、小学校に保育所コーナーの設置 ・保育所だより、学校だよりの交換 ・「顔の見える連携体制」の掲示 等
参加者	保育者、小学校教員
実施場所	保育所、各小学校 等
担当	保小中一貫教育推進委員会 保小・小小連携推進部会

(年 月 日 記録者：)

保小連携推進シート 1

スタートカリキュラム 実施状況		
入学時の学級の様子		現在の学級の様子
保小接続カリキュラムの 成果		
今後の課題		
今年度の保小連携・ 交流活動の内容		

(年 月 日 記録者：)

保小連携推進シート 2

アプローチカリキュラム 実施状況		
重点的に指導してきた内容等	指導の経過	
学級としての育ち		
小学校に向けての課題		
今年度の保小連携・ 交流活動の振り返り		

Ⅲ-4 つなぎたい学びのルール

① 姿勢

■足はペタン 背中はピン！

足は床にぴったりつけ、背筋を伸ばしてイスの背もたれにおしりからつけます。背もたれとの間があくと、背筋を痛める原因となります。

■目を近づけないで書く！

目を近づけると、目を悪くするもとになりますし、背骨も曲がってしまいます。30cmくらいは離すようにします。



② 聞く

■話す人の方を向いて聞く！

発表する人に体を向けて、話し終わるまで黙って聞きます。

■学習中、必要のない時には物を持たない！

学習中に鉛筆や消しゴムを持つと、どうしても集中できません。手を置き、前をしっかりと見て話を聞きます。



③ 話す

■意見があれば、右手をまっすぐ挙げる！

背筋を伸ばし、腕を耳につけてまっすぐ挙げます。

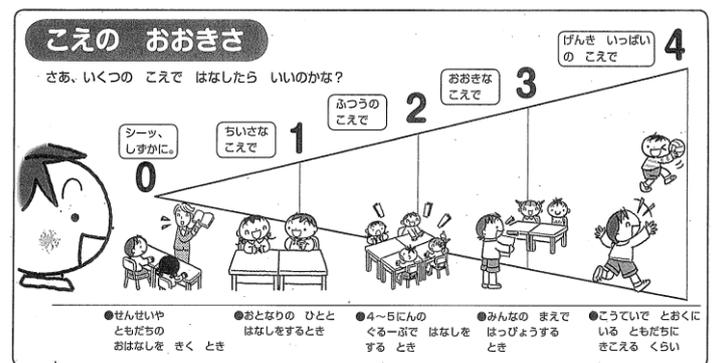
■指名されたら「はいっ」と返事をする！

教師や友達に指名されたら、「はいっ」と返事をして立ちます。

■自分から一番遠い人に向かって発表する！

立ったらイスは机の中に入れて、一番遠い人に向かって話します。必要なら「前に出て説明します」と言って前に出ます。

■その場に応じた音量で話す！



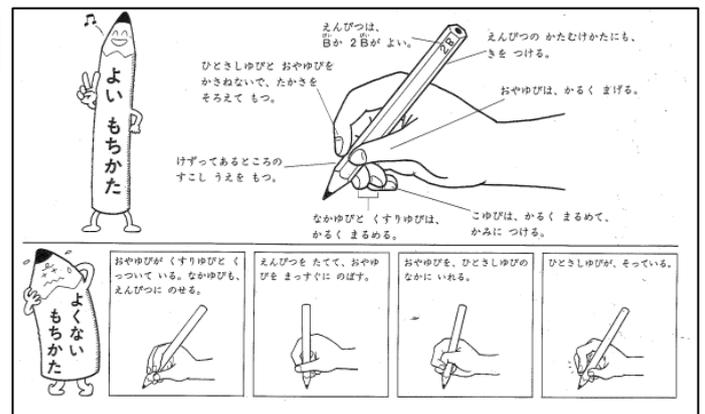
④ 鉛筆の持ち方

■Bまたは2Bの鉛筆を使う！

1つ1つの文字を、丁寧に書きます。

■よい持ち方で鉛筆を持つ！

指の位置や鉛筆の傾きに気を付けて、持つようにします。丁寧な字を長時間でも書くことができるような持ち方をします。



心豊かに たくましく羽ばたく 日野の子



自分を大切にできる子に

- ・子どもをしっかりほめましょう。
- ・子どもの言い分に耳をかたむけましょう。
- ・他人や家族の悪口を言わないようにしましょう。
- ・「ありがとう」の気持ちをもちましょう。
- ・「あなたは宝物」と子どもに伝えましょう。



人とつながれる子に

- ・家族そろっての食事の機会を増やしましょう。
- ・子どもの目を見て、最後まで話を聞きましょう。
- ・子どもに声をかけていきましょう。
- ・子どもとたくさんのスキンシップをしましょう。



ねばり強くがんばる子に

- ・子どもと一緒に、何かをやってみましょう。
- ・親の思いを子どもに語りましょう。
- ・子どもに家事の役割を与えてあげましょう。
- ・我慢する体験もさせましょう。



あいさつ、食事、睡眠、整理整頓

- ・朝食の大切さを知り、バランスの良い食事に心がけましょう。
- ・食事の時は、テレビ等のスイッチを切りましょう。
- ・子どもに必要な睡眠時間を考え、生活リズムをつくりましょう。
- ・子どもと一緒に片付けをし、気持ちよく生活をしましょう。
- ・保育所や学校に必要な物の置き場所を決めましょう。
- ・「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさまでした」と言える子どもにしましょう。

○子どもの手本となるような行動をめざしましょう。

